

第 3 学年

シラバス

2014

Syllabus

日本歯科大学新潟生命歯学部

基本理念

本学は、高等教育機関として、広く知識を授けると共に、深く歯・顎・口腔の医学を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、もって人類の文化の発展と福祉に寄与し、国民の健康な生活に貢献することを使命とする（学則第1条）。

教育の目標

- 1) 幅広い教養と倫理観を持った医療人を育成する。
- 2) 問題を発見し解決する能力を持った医療人を育成する。
- 3) コミュニケーション能力のすぐれた医療人を育成する。
- 4) 歯科医学の最新の知識を生涯学び続ける能力を持った医療人を育成する。
- 5) 根拠に立脚した医療を実践できる医療人を育成する。
- 6) 専門に偏らない幅広い知識と技能を有する医療人を育成する。
- 7) 僻地医療や高齢者の介護福祉など地域医療に貢献できる医療人を育成する。
- 8) 口腔疾患を全身的関連で把握することのできる医療人を育成する。
- 9) 健康増進と疾病の予防に貢献できる医療人を育成する。
- 10) 世界をリードする国際性を有する医療人を育成する。

シラバス

1. シラバスとは

履修する上での必要な要件を詳細に示した授業計画をいう。

2. シラバスの役割

- 1) 授業科目についての詳細な内容と計画が示されている。
- 2) 学生の教室外における予習復習の指針となる。
- 3) 試験に際しては、試験範囲等勉強の指針となる。
- 4) 学生に履修科目選択のための情報を提供する。

3. シラバスの構成

1) 一般目標

学習により期待される成果を示す。

2) 行動目標

学習者の到達すべき行動目標を示す。

3) 学習方略

目標に到達するために必要な学習方法を示す。

4) 評価方法

目標まで達成されたかどうかを判定するための評価方法を示す。

5) 学習内容

授業によって学生が何を学習できるかを示す。

授業科目一覧表

No.	科 目	前 期	後 期
1	早期臨床実習Ⅱ	※※※	
2	地域口腔保健学	※※※	
3	口腔保健学実習	※※※	
4	分子生命科学実習	※※※	
5	組織・口腔組織学実習	※※※	
6	生理学実習	※※※	
7	生体防御学	※※※	
8	感染微生物学・生体防御学実習	※※※	
9	口腔病理学	※※※	
10	病理診断学実習		※※※
11	歯科薬物療法学実習	※※※	
12	歯科理工学	※※※	
13	ヒトと放射線	※※※	
14	画像検査の基礎と応用		※※※
15	保存修復学	※※※	※※※
16	歯冠鑄造修復学		※※※
17	歯内療法学	※※※	※※※
18	歯周疾患治療学	※※※	※※※
19	顎口腔機能診断学	※※※	※※※
20	顎口腔機能診断学実習		※※※
21	歯科矯正学	※※※	※※※
22	歯科矯正学実習		※※※
23	小児歯科学		※※※
24	部分床義歯補綴学		※※※
25	全部床義歯補綴学		※※※
26	口腔顎顔面外科学	※※※	※※※
27	口腔腫瘍学		※※※
28	歯科症候学演習		※※※
	科 目 総 数	18	16

新潟生命歯学部 授業科目等

授 業 料 目	単位数	計
医学概論・歯科医学史	1.5	1.5
早期臨床実習Ⅰ・Ⅱ	1.0	1.0
臨床から振り返る基礎学	1.5	1.5
ま と め	1.5	1.5
プロフェッション	1.0	1.0
自由 科 目	社 会 学	3
	経 済 学	
	ドイツの生活と情報	
青 年 心 理 学	1.5	3
臨 床 心 理 学	1.5	
原子核と放射線	1.5	4.5
物質の構造と反応	1.5	
生命の連続性と遺伝子	1.5	
熱と物質の物理	3	3
熱と物質の物理(補習と演習)	0	
基 礎 科 学	0	
生体物質の化学	3	3
生体物質の化学(補習と演習)	0	
基 礎 科 学	0	
細胞の生物学	3	3
細胞の生物学(補習と演習)	0	
基 礎 科 学	0	
自然現象の数学	3	3
生活と環境	1.5	1.5
自然科学実習	2	2
国語表現法	3	3
総合英語	1.5	3.75
実用医学英語	0.75	
英語会話	1.5	
基礎独語	1.5	1.5
情報科学の実習	1	1

授 業 料 目	単位数	計
医 療 倫 理	0.75	0.75
医 療 法 律 学	1.5	1.5
社 会 歯 科 入 門	0.75	0.75
歯科医療コミュニケーション実習	0.8	0.8
ファンダメンタルスキル実習Ⅰ・Ⅱ	0.75	0.75
健 康 科 学	1.5	1.5
歯 科 法 医 学	0.75	0.75
医療情報・医療管理学	0.75	0.75
基礎口腔保健学	1.5	3.5
地域口腔保健学	1.5	
口腔保健学実習	0.5	
生 化 学	1.5	3.5
口 腔 生 化 学	1.5	
分子生命科学実習	0.5	
基礎歯科医学補講Ⅰ	0	9.75
解 剖 学	3	
解 剖 学 実 習	2	
口 腔 解 剖 学	1.5	
口 腔 解 剖 学 実 習	1	
発 生 学	0.75	
人 類 学	1.5	
基礎歯科医学補講Ⅱ	0	
組 織 学	1.5	
口 腔 組 織 学	1.5	4
組織・口腔組織学実習	1	
基礎歯科医学補講Ⅰ	0	
生 理 学	3	4
生 理 学 実 習	1	
基礎歯科医学補講Ⅱ	0	
感 染 微 生 物 学	3	5.5
生 体 防 御 学	1.5	
感染微生物学・生体防御学実習	1	
基礎歯科医学補講Ⅰ	0	4
病 理 学	1.5	
口 腔 病 理 学	1.5	
病理診断学実習	1	
薬 物 療 法 学	1.5	4
歯 科 薬 物 療 法 学	1.5	
歯科薬物療法学実習	1	
基礎歯科医学補講Ⅰ	0	
歯 科 薬 剤 学	1.5	1.5
歯 科 理 工 学	4.5	5.5
歯科理工学実習	1	

授 業 料 目	単位数	計
ヒトと放射線	1.5	3
画像検査の基礎と応用	1.5	
歯科麻酔と救急処置	3	3
口腔顎顔面外科手術学	1.5	3.1
口腔外科学・全身管理学実習	1.6	
保存修復学	3	4.6
保存修復学実習	1.6	
歯冠鑄造修復学	1.5	1.5
歯内療法学	3	4.6
歯内療法学実習	1.6	
歯周疾患治療学	3	4
歯周疾患治療学実習	1	
顎口腔機能診断学	3	4
顎口腔機能診断学実習	1	
歯科矯正学	3	4
歯科矯正学実習	1	
小児歯科学	3	4
小児歯科学実習	1	
部分床義歯補綴学	3	4.6
部分床義歯補綴学実習	1.6	
全部床義歯補綴学	1.5	3.1
全部床義歯補綴学実習	1.6	
歯冠補綴架工義歯学	1.5	4.7
歯冠補綴架工義歯学実習	3.2	
口腔顎顔面外科学	4.5	6
口腔顎顔面外科診断治療学	1.5	
高齢者歯科学	1.5	1.5
障害者歯科学	0.75	0.75
歯科心身医学	0.75	0.75

授 業 料 目	単位数	計
専門歯科治療概論	1.5	1.5
医療統計学	0.75	0.75
生体機能調節学	1.5	1.5
ヒトの一生	1.5	1.5
材料科学	1.5	1.5
顎口腔運動制御学	0.75	0.75
唾液と唾液腺	0.75	0.75
臨床診査・検査学	1.5	1.5
口腔腫瘍学	1.5	1.5
歯性感染症	0.75	0.75
顎咬合診断・口腔インプラント学	1.5	2.3
口腔インプラント実習	0.8	
歯科医学入門演習	2	4
歯科症候学演習	2	
歯科医のための内科学	3	3
外科学	1.5	1.5
耳鼻咽喉科学	1.5	1.5
食育・食術	0.75	0.75
臨床(病院)実習	10	10
総合試験・CBT	3	3
総合科目①②③	6	6
包括歯科医学	4	4
合 計		199.8

第3学年 授業科目 目次

— 前 期 —

早期臨床実習Ⅱ	10
地域口腔保健学	12
口腔保健学実習	14
分子生命科学実習	16
組織・口腔組織学実習	18
生理学実習	20
生体防御学	22
感染微生物学・生体防御学実習	24
口腔病理学	26
歯科薬物療法学実習	28
歯科理工学	30
ヒトと放射線	32
保存修復学	34
歯内療法学	36
歯周疾患治療学	38
顎口腔機能診断学	40
口腔顎顔面外科学	42
歯科矯正学	44

— 後 期 —

口腔腫瘍学	48
病理診断学実習	50
画像検査の基礎と応用	52
保存修復学	54
歯冠鑄造修復学	56
歯内療法学	58
歯周疾患治療学	60
顎口腔機能診断学	62
顎口腔機能診断学実習	64
部分床義歯補綴学	66
全部床義歯補綴学	68
口腔顎顔面外科学	70
歯科矯正学	72
歯科矯正学実習	74
小児歯科学	76
歯科症候学演習	78

第3学年 前期授業科目 目次

早期臨床実習Ⅱ	10
地域口腔保健学	12
口腔保健学実習	14
分子生命科学実習	16
組織・口腔組織学実習	18
生理学実習	20
生体防御学	22
感染微生物学・生体防御学実習	24
口腔病理学	26
歯科薬物療法学実習	28
歯科理工学	30
ヒトと放射線	32
保存修復学	34
歯内療法学	36
歯周疾患治療学	38
顎口腔機能診断学	40
口腔顎顔面外科学	42
歯科矯正学	44

早期臨床実習Ⅱ

授業責任者：水谷太尊

教科書：指定なし

一般目標：

社会のニーズに適応できる歯科医師となるために、医療を学ぶ学生としての望ましい態度を再確認し、基礎と臨床を統合できる能力の必要性を認識したうえで、医療の本質について理解する。

行動目標：

1. 自分の目標とする歯科医師像について述べる。(A-3)
2. 歯科医学生にふさわしい基本的な振るまい、身だしなみ、言葉遣いを実践する。(A-1~3)
3. 歯科疾患で悩む患者とその家族の状況や訴えを理解し十分な配慮の下でコミュニケーションする。(A-4)
4. 歯科医療の流れを説明する。(A-3)
5. 歯科領域における専門性について説明する。(A-7-3))
6. 他職種連携医療を説明する。(A-7-3)
7. 介護の重要性について説明する。(B-2-2))
8. 診療室での院内感染対策について概説する (A-5-1), 3))
9. 教養系, 基礎系, 臨床系科目の関連性を説明する。(A-6)
10. 今後の学習目標を設定する。(A-6)

学習方略：

示説および臨床実習（必修実習および選択実習）

評価方法：

出席状況, レポート, 観察記録, 実習態度（新潟病院において歯科学生として不適切な態度が認められた場合には即刻実習を中止させる。）

(単位数：0.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者	
1	6月12日	オリエンテーション		水谷 太尊 黒川 裕臣	
2	6月19日 6月26日 7月3日 7月10日 8月28日 9月4日	在宅往診ケアチーム	介護技術の相互実習	白野 美和 両角 祐子	
3		口腔外科	歯科手術の基本手技 切開・縫合の実際	赤柴 竜 小黒 英紀	
4		歯科麻酔 全身管理	歯科麻酔の実際 歯科治療における全身管理 一次救命	高橋 靖之	
5		臨床シミュレーション	デンタルユニットを使って実際の歯科治療を体験	横須賀孝史 若木 卓	
6		選択：2項目		放射線科	織田 隆昭
				小児歯科・矯正歯科	黒木 大雄
				口腔インプラントセンター	中村 雅裕
				睡眠歯科センター	猪子 芳美
				白い歯外来	關 秀明
				特殊歯周治療外来	阿部 祐三
	7			スポーツ歯科外来	渥美陽二郎
				いき息さわやか外来	大森みさき
		あごの関節外来	永田 和裕		
		口のかわき治療外来	戸谷 収二		
		歯科アレルギー外来	小根山隆浩		
		顎のかたち・咬み合わせ外来	小林 義樹		

地域口腔保健学

授業責任者：小松崎 明

教科書：1. 口腔保健学2012・松久保隆 他・一世出版
2. 歯科保健指導関係資料・歯科保健医療研究会 監修・口腔保健協会

参考書：歯科衛生の動向2007年版・日本口腔衛生学会 編・医歯薬出版

一般目標：

将来、地域を主体とする口腔保健活動に参画するため、その理論と具体的な活動の計画・実践・評価についての知識を理解し、活動の基盤となる法律・組織とそれぞれの口腔保健サービスの進め方などについて必要な知識を身につける。

行動目標：

1. ヘルスプロモーションの概念と地域口腔保健活動のあり方を説明する。(B-3-1) -③)
2. 地域口腔保健活動の基盤となる法律と行政組織を説明する。(B-2-2) -①)
3. 地域口腔保健活動の基盤となる健康日本21と健康増進法の考え方を説明する。
4. 地域口腔保健活動の拠点である市町村保健センターと保健所の役割を説明する。(B-2-2) -①)
5. 健康教育、健康相談、健康診査の目的と技法を説明する。
6. 地域口腔保健活動を評価するうえで必要なデータを収集する。(B-2-2) -⑧, B-4-2) -①)
7. 母子保健の目的と用語の定義を理解し、1歳6か月児及び3歳児を中心とした乳幼児期の発育状況、口腔状況について説明する。(B-2-2) -⑧, B-2-2) -⑨, B-3-2) -④)
8. 1歳6か月児と3歳児の歯科健康診査の方法う蝕罹患型区分と診査後の指導を説明する。(B-2-2) -⑧, B-3-2) -④)
9. 学校保健を二大領域にわけて、目的、根拠法、担当者、具体的内容を説明する。(B-2-2) -⑧, B-3-2) -④)
10. 児童生徒期の口腔状況と学校歯科医の職務を説明する。(B-2-2) -⑧, B-3-2) -④)
11. 学校における歯の健康診断の手法と診断後の指導等を説明する。(B-2-2) -⑧, B-3-2) -④)
12. 産業保健の目的と管理体制、職場における健康保健増進対策等の進め方を説明する。(B-2-2) -⑧, B-3-2) -④)
13. 歯の酸蝕症をはじめとする職業性疾病を説明する。(B-3-2) -④)
14. 高齢者における保健事業の種類と実施内容を説明する。(B-2-2) -⑧, ⑨, B-3-2) -④)
15. 成人・高齢者の口腔状況と歯周疾患検診の進め方、検診後の指導等を説明する。(B-2-2) -④, B-3-2) -⑧)
16. 21世紀の歯科医療を担う歯科医師にとって口腔保健がどのような位置を占めるか説明する。(B-2-2) -⑩)

学習方略：

講義、自己学習

評価方法：

客観試験、記述試験、出席状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	4月14日	地域口腔保健の概念	包括医療，ヘルスプロモーション，生活の質の向上，社会的背景	小松崎 明 鴨田 剛司 小野 幸絵
2	4月21日	地域口腔保健の法と組織	地域保健関係法規，厚生労働省，都道府県，市町村，健康日本21	
3	4月28日	地域口腔保健活動の場	市町村保健センター，保健所	
4	5月12日	地域口腔保健活動の計画と技法	地域保健計画，健康教育，健康相談，健康診査，保健調査	
5	5月19日	保健医療統計からみた地域特性	人口動態・静態統計，患者調査，学校保健統計，歯科疾患実態調査	
6	5月26日	地域口腔保健活動の調査と集計評価	保健統計資料，集団の把握，横断・縦断の評価	
7	6月2日	母子保健概論	妊産婦，乳幼児，成長発育発達，母子健康手帳	
8	6月9日	学校保健概論	保健教育，保健管理，学校保健計画，養護教諭，学校歯科医	
9	6月16日	母子・学校口腔保健活動	1歳6か月児健康診査，3歳児健康診査，う蝕罹患型，保健指導定期健康診断，保健調査，事後措置，保健指導	
10	6月23日	産業保健，成人保健	特殊検診，労災補償保険，T H P，特定健診・特定保健指導，歯周疾患検診	
11	6月30日	福祉制度，公的扶助	児童福祉，障害者福祉，高齢者福祉，介護保険制度，生活保護，医療扶助	
12	7月7日	医療制度，国民医療費	医療資源，医療機関，医療保険，国民医療費	
13	7月14日	地域保健医療の展望	口腔ケアと介護予防，地域ケアシステム	
14	8月25日	関連する国家統計の概要	国勢調査，歯科疾患実態調査ほか，重要図表の確認等	
15	9月1日	CBT，国家試験での出題傾向	過去の国家試験での出題傾向，重要図表の確認等	小松崎 明
16				

口腔保健学実習

授業責任者：小松崎 明

教科書：口腔保健学実習書

参考書：シンプル衛生公衆衛生学改訂第9版・鈴木庄亮，久道 茂，南江堂

一般目標：

社会のニーズに応える歯科医師となるために，日常の生活環境が健康におよぼす影響について理解するとともに，集団を対象とした地域保健医療に従事する歯科医師に必要とされる技術，および疫学的手法に基づく評価等についての知識を身につける。

行動目標：

1. 歯科診療，歯科保健指導に従事する歯科医師に求められる知識，態度等を説明する。
2. 環境測定器具の操作を通じて測定値の扱いを習得する。合わせて生活に至適な環境条件について考察する。
3. 齲蝕や歯周疾患のスクリーニング法について習得する。
4. 個人の健康状況について実際に調査し，生活習慣と健康について考察する。
5. 自然界における飲料水のフッ素濃度と測定法について理解する。
6. 口腔疾患の診査に必要な要件について理解し，診査方法を実施する。
7. 手指消毒法，廃棄物処理について実践する。
8. 清潔域の設定と，清潔域上での器具の操作について実践する。
9. 歯牙植立模型を用いて齲蝕の診断を行い，診断基準の統一法を説明する。
10. 口腔内診査を実施し，診査方法と記録方法について説明する。
11. 代表的な歯周疾患検査であるC P Iについての手技を実施する。
12. O H I 評価法や歯ブラシを用いた口腔清掃行動について実践する。
13. データの集計法および統計処理について実践する。
14. カリエスリスク評価の手法について実践する。

学習方略：

事前学習，実習，レポート作成

評価方法：

論述・客観試験，実習態度，出席状況

(単位数：0.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月10日	オリエンテーション, 環境測定	データの記録, 手指消毒法, 廃棄物の分別, 環境測定の原理と演習	小松崎 明 鴨田 剛司 小野 幸絵 清水 公夫 田中 聖至 高塩 智子 三瓶 素子 圓山 浩晃
2	4月17日	保健指導, TBI演習	歯垢染色, リスク部位の把握(スケッチ), ブラッシング指導	
3	4月24日	口腔環境検査	RDテスト, Dentobuff Strip, 全唾液pH測定, カリエスリスク判定	
4	5月8日	フッ素濃度の測定, 耐酸性向上の確認	飲料水中のフッ素濃度の測定, 健康調査, 食生活・生活活動調査, フッ化物の耐酸性向上確認	
5	5月15日	口腔診査(1) 診査・記録方法と模型診査	口腔診査の術式, 器具の使用法等, 歯の植立模型の診断	
6	5月22日	口腔診査(2) 歯の状況	歯面別診査の相互実習	
7	5月29日	口腔診査(3)OHI	OHI診査の相互実習	
8	6月5日	口腔診査(4)CPI 試験	CPI診査の相互実習	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

分子生命科学実習

授業責任者：梨田智子

教科書：分子生命科学実習書

参考書：歯科学生のための診査・検査学入門・鴨井久一・永末書店（2006）

一般目標：

生体内物質の役割や意義について深く理解し、臨床診断学的知識を有する歯科医となるために、血液および唾液中の物質の定性・定量技法を習得し、分子生命科学と生化学についての理解を深める。

行動目標：

1. 実習の意義を理解し、試薬および計測器具の取り扱いに習熟する。(A-6-2) -①～④)
2. 血清中のタンパク質成分を理解し、分離および定量の原理と技法を習熟する。(C-1-1) -①)
3. 血清中の酵素の測定法を理解し、その役割と臨床的意義を説明する。(C-1-1) -⑤)
4. 遺伝および遺伝子工学の基礎を理解し、一塩基変異の生物学的意義および検出法を説明する。(C-1-1) -⑤) (C-1-2) -①～⑤)

学習方略：

講義，示説，実習，見学

評価方法：

客観試験，レポート，出席

(単位数：0.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	8月25日	実習序説および計量と比色法の実践	比色定量法の原理と手法および計測器の取り扱いについて習熟する。	梨田 智子 今井あかね 相田 美和 佐藤 律子 螺良 修一
2	8月26日	血清タンパク質の定量と成分分離	血清総タンパク質の定量, および電気泳動法による成分分離法の原理と手法に習熟し, その臨床的意義を理解する。	
3	8月27日	血清酵素の活性測定	血清中の酵素 (ALT とコリンエステラーゼ) の活性測定法を学習し, 臨床的意義を理解する。	
4	8月29日	PCRと制限酵素による遺伝子解析(1)	口腔粘膜からの DNA の抽出法, および PCR 法の原理を理解し, 手法に習熟する。	
5	9月1日	PCRと制限酵素による遺伝子解析(2)	制限酵素分解と DNA 断片の検出法を学習し, 一塩基変異による酵素活性変化について理解する。	
6	9月2日	記述試験	実習項目全般の理解度を確認する。	
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

組織・口腔組織学実習

授業責任者：吉江紀夫

教科書：人体組織図譜・相磯貞和（訳）・南江堂

参考書：カラーアトラス組織・細胞学・岩永敏彦（著）・医歯薬出版

一般目標：

生体の微細構造をより深く理解し、また観察力を養うために、組織標本（プレパラート）を顕微鏡観察し、組織・器官の正常構造を確認する。

行動目標：

1. 顕微鏡の操作および検鏡方法を実践する。
2. 体を構成する4基本組織を正確に説明する。(C-2-3) -(1)-①～⑧, C-2-3) -(5)-④)
3. 歯胚の各要素を正確に説明する。(E-3-1) -①)
4. 歯の構造を正確に説明する。(E-3-1) -③, ④)
5. 歯周組織の構造を正確に説明する。(E-3-1) -⑤)
6. 3大唾液腺の構造的特徴を正確に説明する。(E-2-2) -⑤)
7. 舌乳頭の構造を正確に説明する。(E-2-2) -②)
8. 扁桃の構造を正確に説明する。(C-2-3) -(11)-①)

学習方略：

示説，標本観察，スケッチ

評価方法：

レポート，客観試験

(単位数：1.0)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月11日	オリエンテーション	実習の進め方，顕微鏡の使い方，観察方法およびスケッチの方法	吉江 紀夫 石山巳喜夫 横須賀宏之 熊倉 雅彦 辻村麻衣子
2	4月14日	血 球	血球の種類と形態的特徴	
3	4月15日	上皮組織	細胞配列による上皮組織の分類	
4	4月16日	支持組織	骨組織と軟骨組織の構造的特徴	
5	4月18日	筋組織	平滑筋組織，骨格筋組織および心筋組織の構造的特徴	
6	4月21日	神経組織	脳，脊髄および神経節の構造的多様性	
7	4月22日	歯と歯周組織の発生	形成過程にある歯胚の各要素の構造と発生する歯の組織	
8	4月23日	歯	エナメル質，象牙質，歯髄およびセメント質の構造	
9	4月25日	歯周組織	歯根とその周囲の組織構造	
10	4月28日	舌乳頭と扁桃	糸状・茸状・有郭・葉状乳頭と舌扁桃の構造	
11	5月7日	唾液腺	耳下腺，顎下腺および舌下腺の形態的特徴	
12	5月9日	試 験	各学習項目に対する理解度の評価	
13				
14				
15				
16				

生理学実習

授業責任者：佐藤義英

教科書：生体生理機能学実習書（日本歯科大学新潟生命歯学部生理学講座版）

参考書：基礎歯科生理学第6版・森本俊文，山田好秋他2名・医歯薬出版
ビジュアル生理学・口腔生理学第3版・浅沼直和他7名・学建書院
標準生理学第7版・小澤澁司他4名・医学書院

一般目標：

臨床歯科医学を理解するために、人体を被験者として実験を実施し、組織、器官、個体レベルでの生体の正常な生理機能の仕組みを観察・分析・理解する基礎知識・態度・技能を習得する。

行動目標：

1. 心電図を記録し、呼吸による瞬時心拍変動のメカニズムを説明する。(C-2-3) -(3)-①, C-2-3) -(7)-②)
2. 血圧を測定し、血圧を変化させる各種要因を挙げてその変調機構を説明する。(C-2-3) -(3)-③, ④)
3. 咀嚼能率を測定し、その性質を説明する。(E-2-2) -(⑥)
4. 咬合力を測定し、その性質とメカニズムを説明する。(E-2-1) -(⑥)
5. 咀嚼筋筋電図を記録し、その性質とメカニズムを説明する。(E-2-2) -(⑥)
6. 皮膚および口腔における体性感覚を測定し、その性質とメカニズムを説明する。(C-2-3) -(4)-①, E-2-2) -(①)
7. 人体を被験者として実験を実施する。
8. 整理整頓された環境を維持する。

学習方略：

実験，講義，演習

評価方法：

論述試験，客観試験，レポート，観察記録，出欠状況，実習態度

(単位数：1.0)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	5月12日	講義	心電図と心拍変動，血圧測定，咀嚼能率，咬合力と閉口筋筋活動，皮膚・口腔感覚のメカニズムと生理的意味と意義を学習する。	佐藤 義英
2	5月14日	①心電図と心拍変動 ②血圧測定 ③咀嚼能率 ④咬合力と閉口筋表面筋電図の測定 ⑤皮膚と口腔の感覚	以下の5テーマの実験を1組2～4人のグループで毎時間並列して行う。 ①心電図の導出方法とその成分の解析ならびに呼吸による心拍変動について学習する。 ②血圧の測定方法と血圧を変化させる要因とその変調機構を学習する。 ③咀嚼能率の測定とその統計的解析方法を学習する。 ④咬合力を測定し，食品咀嚼時の咬筋筋電図の記録方法とその解析方法を学習する。 ⑤皮膚および口腔における体性感覚の測定方法とその解析方法を学習する。	石塚 健一 佐藤 義英
3	5月16日			岩間 光典 佐藤 正彦 矢島絵理子
4	5月16日	随意運動	DVD視聴により随意運動のしくみを学習する。	石塚 健一 佐藤 義英
5	5月19日	上記①～⑤	上記①～⑤，5テーマの実験を1組2～4人のグループで毎時間並列して行う。	石塚 健一 佐藤 義英 中島 輝夫 今湊 良証 長峯 康博 内田 喜昭
6	5月20日			
7	5月21日			
8	5月23日	応用解説	心電図と心拍変動，血圧測定，咀嚼能率，咬合力と閉口筋筋活動，皮膚・口腔感覚に関する設問の解読方法を学習する。	石塚 健一 佐藤 義英
9	5月26日	血液循環	DVD視聴により血液循環の機能を学習する。	
10	5月27日	筆記試験	各実習項目の理解度を確認する。	
11				
12				
13				
14				
15				
16				

生体防御学

授業責任者：葛城啓彰

教科書：口腔微生物学—感染と免疫—・学建書院

参考書：免疫学イラストレイテッド・多田富雄，南江堂
最新免疫学図説・菊地浩吉・メディカルカルチャ

一般目標：

EBDを行える歯科医師となるために、病態生理に基づき病原微生物や腫瘍に対する生体防御機構とアレルギー反応を理解する。

行動目標：

1. 食細胞の機能について説明する。(C-3-2) -①)
2. 炎症の機序について説明する。(C-3-2) -①)
3. 免疫関連臓器を説明する。(C-3-2) -③)
4. 免疫担当細胞の種類と働きについて説明する。(C-3-2) -③)
5. 免疫応答の成立について説明する。(C-3-2) -②, C-3-2) -⑦)
6. 抗体の種類と特徴について説明する。(C-3-2) -②)
7. 補体成分とその活性化経路を説明する。(C-3-2) -①)
8. 細胞性免疫の仕組みを説明する。(C-3-2) -②)
9. サイトカインの種類と働きを説明する。(C-3-2) -②)
10. アレルギーを成立機序により分類する。(C-3-2) -⑤)
11. 即時型アレルギーの発症機序を説明する。(C-3-2) -⑥)
12. 遅延型アレルギーの発症機序を説明する。(C-3-2) -⑥)
13. 自己免疫疾患の発症機序を説明する。(C-3-2) -⑥)
14. 移植拒絶反応を説明する。(C-3-2) -④)
15. 免疫寛容を説明する。(C-3-2) -④)
16. 粘膜免疫の特殊性について説明する。
17. 腫瘍免疫とそのエスケープ機構を説明する。

学習方略：

講義，討論，Tree-map

評価方法：

総括的評価：客観試験

形成的評価：出席，プレテスト，ポストテスト，Tree-map

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	4月14日	生体防御総論 自然免疫	非特異的感染防御機構と食細胞の働き 自然免疫系の構成要素 P216-222	葛城 啓彰
2	4月21日	炎 症	急性炎症の機序-ケミカルメディエーターと白血球遊走, 接着分子	
3	4月28日	免疫系の構成	免疫関連臓器と免疫担当細胞 胸腺・骨髄と末梢性リンパ組織 P223-227	
4	5月12日	免疫応答	主要組織適合抗原と免疫応答 抗原提示と抗原認識 P228-234	
5	5月19日	サイトカイン	サイトカインの種類と働き P235-239	
6	5月26日	体液性免疫	体液性免疫の仕組みと抗体, 補体 抗体の種類と多様性 P240-253	
7	6月2日	細胞性免疫	細胞性免疫の仕組み T細胞サブセット P254-262	
8	6月9日	粘膜免疫	粘膜免疫の構成要素と特殊性 P263-266	
9	6月16日	アレルギー(1)	クームスの分類とアレルギーの成立機序 I型アレルギーの成立機序と病態生理 P274-277	
10	6月23日	アレルギー(2)	II・III型アレルギーの成立機序と病態生理 P278-279	
11	6月30日	アレルギー(3)	IV型アレルギーの成立機序と病態生理 移植拒絶とGVHD P279-280	
12	7月7日	自己免疫疾患と 膠原病	自己免疫疾患の成立期序と病態生理 SLE, 慢性関節リウマチ, 強皮症, 多発性筋炎 P280-282	
13	7月14日	腫瘍免疫 免疫寛容	腫瘍に対する免疫応答と破綻 免疫寛容の機序 P261	
14	8月25日	免疫不全症候群	先天性免疫不全症候群 食細胞系, Tリンパ球系, Bリンパ球系 P271-273	
15	9月1日	まとめと質疑応答	1~14のまとめ, 質疑応答	
16				

感染微生物学・生体防御学実習

授業責任者：葛城啓彰

教科書：感染微生物学・生体防御学実習書・葛城啓彰・日本歯科大学

参考書：シンプル微生物学・東 匡伸・小熊恵二編集・南江堂
口腔微生物学・免疫学・浜田茂幸編集 医師薬出版

一般目標：

清潔・不潔の概念を理解しバイオハザードへの対処ができる歯科医師となるために、微生物の観察・培養・検体検査から、微生物の安全な取り扱い技術を身につける。

行動目標：

1. 無菌操作を行う。(C-3-1) -③)
2. 細菌・検査材料をグラム染色する。(C-3-1) -①)
3. 細菌・真菌の形態を顕微鏡で観察する。(C-3-1) -①)
4. 細菌・真菌を無菌的に培養する。(C-3-1) -①)
5. 細菌・真菌を同定する。(C-3-1) -①)
6. 細菌・真菌の薬剤感受性試験を行う。(C-3-1) -④)
7. 試験管内抗原抗体反応（沈降，凝集，毒素中和反応）を行う。(C-3-2) -②)
8. アレルギー検査の結果を判定する。(C-3-2) -⑥)
10. う蝕のリスク診断を行う。(C-3-2) -①)
11. 清潔・不潔の区別をする。(C-3-1) -③, C-3-1) -⑥)
12. 器具・機材を滅菌・消毒する。(C-3-1) -③, C-3-1) -⑥)
13. 手指の消毒を適切に行う。(C-3-1) -③, C-3-1) -⑥)
14. 微生物汚染材料を処理する。(C-3-1) -③, C-3-1) -⑥)

学習方略：

実習，講義

評価方法：

形成的評価：出席，レポート

総括的評価：実技試験（OSCE）

(単位数：1.0)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	6月18日	基本操作 グラム染色	無菌操作, 滅菌・消毒法, グラム染色, ブドウ球菌の培養	葛城 啓彰 大埜間 勉 鈴木 安里 三上 正人
2	6月20日	グラム陽性球菌	ブドウ球菌の性状検査, レンサ球菌のグラム染色・培養	
3	6月23日	レンサ球菌 毒素中和反応	レンサ球菌の性状, CRP検査	
4	6月24日	グラム陰性桿菌 凝集反応	グラム陰性桿菌のグラム染色・確認培養(翌日判定)	
5	6月25日	菌数測定(1)	唾液中の細菌数の測定(コロニー形成法), 連続段階希釈と培養 唾液潜血反応・血液型	
6	6月27日	菌数測定(2) 真菌の同定	菌数測定, カンジダのスライド凝集, カンジダの性状, スライドカルチャー	
7	6月30日	プラーク細菌(1)	カリエスリスクの検査, プラーク細菌のグラム染色・分離培養	
8	7月1日	プラーク細菌(2)	ミュータンス菌の性状検査, プラーク細菌の純培養	
9	7月2日	プラーク細菌(3)	プラーク細菌の増菌培養	
10	7月4日	プラーク細菌(4)	プラーク細菌の同定検査と薬剤感受性試験	
11	7月7日	プラーク細菌(5)	プラーク細菌の同定と薬剤感受性試験の判定	
12	7月8日	歯周病原性細菌 (1)	<i>P. gingivalis</i> , <i>A. actinomycetemcomitans</i> , <i>F. nucleatum</i> の性状	
13	7月9日	歯周病原性細菌 (2)	歯周炎患者標本の観察, TPHA試験	
14	7月11日	OSCE	無菌操作, 培地の選択, 清潔・不潔の区別, グラム染色, 分離培養, 菌数計算, カリエスリスクの判定, 顕微鏡操作, 薬剤感受性試験の判定	
15				
16				

口腔病理学

授業責任者：岡田康男

教科書：スタンダード口腔病態病理学 第2版・賀来 亨，槻木恵一 編著・学建書院

参考書：歯学生のための病理学 口腔病理編 第2版・二階宏昌，伊集院直邦，下野正基 編・医
歯薬出版

口腔病理アトラス 第2版・高木 實 監修・文光堂

一般目標：

歯科医師として必要な口腔・顎・顔面領域に発現する疾患の病態・病理について理解する。

行動目標：

1. 歯の発育異常とその関連病変の病態・病理を説明する。(E-2-3) -④, E-2-4) -(1)-①, E-3-2) -①, ②)
2. 歯の損傷と喪失の修復過程の病態・病理を説明する。(E-2-3) -③, E-2-4) -(2)-②, E-3-2) -①)
3. 齲蝕症の進展とその病態・病理を説明する。(E-3-2) -①, E-3-3) -(1)-①, ⑬, E-4-2) -②)
4. 齲蝕症の继发症としての歯髄炎と歯周炎(根尖性と辺縁性)の進展とその病態・病理を説明する。(E-2-4) -(3)-⑤, E-3-2) -①~⑤, E-3-3) -(2)-⑤)
5. 歯周・支持組織の破壊を通してその修復過程の病態・病理を説明する。(E-3-2) -④, ⑤, E-3-3) -(3)-⑤)
6. 口腔粘膜部と顎骨部の創傷の治癒とインプラント術後創の治癒の仕組みの病態・病理を説明する。(C-4-2) -③, E-2-4) -(2)-①)
7. 口腔粘膜疾患と顎骨部の疾患の種類と病態・病理を説明する。(E-2-4) -(3)-①, ④, ⑦, E-2-4) -(4)-①, ②, E-2-4) -(6)-①, ②)
8. 腫瘍を除く唾液腺疾患の分類と病態・病理を説明する。(E-2-4) -(7)-①, ②, ④, ⑤)
9. 唾液腺腫瘍の分類と病態・病理を説明する。(E-2-4) -(7)-③)
10. 口腔領域の嚢胞形成性疾患の分類と病態・病理を説明する。(E-2-4) -(5)-①~④)
11. 口腔領域の腫瘍類似疾患の分類と病態・病理を説明する。(E-2-4) -(5)-⑧~⑪)
12. 歯原性腫瘍の分類と病態・病理を説明する。(E-2-4) -(5)-⑤, ⑦, ⑬)
13. 口腔領域の腫瘍について、唾液腺腫瘍を除いた非歯原性腫瘍の分類と病態・病理を説明する。(E-2-4) -(5)-⑥, ⑦, ⑫, ⑬)
14. 口腔局所に発現する各種病変と全身疾患との関連の病態・病理を説明する。(E-1-1) -②, E-2-3) -③, ⑤, E-2-4) -(1)-①, E-2-4) -(4)-②, E-2-4) -(6)-①, E-2-4) -(9)-①~⑩, E-4-3) -②)

学習方略：

講義，示説

評価方法：

レポート，ソクラテス授業，出席状況，客観試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	4月16日	歯の発育異常・ 損傷・着色との 関連病変	歯の数, 形, 萌出時期, 位置, 歯列弓, 咬合, 構造異常なら びに機械的・化学的損傷と沈着物による着色と変色の病態・ 病理	岡田 康男
2	4月23日	口腔粘膜疾患	分類と総論・各論としての病態・病理	
3	5月7日	抜歯創の治癒過 程と関連病変	抜歯創の治癒過程について総論と各論の病態・病理	
4	5月14日	齲蝕症との関連 病変(1)	齲蝕の分類と総論としての病態・病理	木暮 ミカ
5	5月21日	齲蝕症との関連 病変(2)	齲蝕の各論としての病態・病理	岡田 康男
6	5月28日	齲蝕に継発する 病変	歯髄炎と根尖性, 辺縁性歯周炎の病態・病理	
7	6月4日	嚢胞形成性疾患	軟組織や硬組織と関連して発現する嚢胞(唾液腺を除く)の 病態・病理	
8	6月11日	唾液腺疾患との 関連病変	唾液腺腫瘍を除き, 炎症と嚢胞を含む退行性病変の病態・病 理	
9	6月18日	唾液腺腫瘍	唾液腺腫瘍の病態・病理	
10	6月25日	腫瘍と類似疾患 (1)	分類と両者を鑑別する総論としての病態・病理	
11	7月2日	特別講義	大学で学んだ病理学の知識を歯科臨床に生かす ー開業歯科における実践ー	小澤 一嘉
12	7月9日	腫瘍と類似疾患 (2)	歯源性腫瘍と類似疾患の各論としての病態・病理	岡田 康男
13	7月16日	腫瘍と類似疾患 (3)	非歯源性腫瘍と類似疾患の各論としての病態・病理	
14	8月27日	全身疾患と関連 する口腔病変	口腔領域に発現する代謝性疾患や症候群の病態・病理	
15	9月3日	代表的疾患の総 括	質疑応答による総合的理解	
16				

歯科薬物療法学実習

授業責任者：桑島治博

教科書：歯科薬物療法学実習書

日本歯科大学新潟生命歯学部薬理学講座

参考書：現代歯科薬理学 第4版・加藤有三ほか・医歯薬出版

一般目標：

臨床において適正な薬物療法を実践するために、歯科治療で用いられる薬物の薬理作用を理解し、小動物を用いた実験技術を身につける。

行動目標：

1. 実験薬理学の方法論の概略を説明する。
2. 実験動物への薬物投与方法の手技を実践する。
3. 全身麻酔薬の薬理作用を説明する。(C-5-2) -③, ④, ⑥, E-1-3) -(4)-①)
4. 歯科用薬剤の腐蝕・収斂作用と有害作用を説明する。(C-5-2) -③, C-5-4) -①)
5. 薬物の用量と作用強度を示す値 (ED_{50}) について説明する。(C-5-2) -③, ④)
6. 二重盲検法の概略と真の薬効について説明する。(C-5-2) -③, ④)
7. 化学療法薬の種類、薬理作用および臨床応用を説明する。(C-5-2) -①, ③, ④, ⑥)
8. 抗炎症薬の種類、薬理作用および臨床応用を説明する。(C-5-2) -①, ③, ④, ⑥)
9. 薬物の適正使用に努める。
10. 実験動物の愛護に努める。

学習方略：

実験動物を用いた実習とその項目に関する講義

評価方法：

論述・客観試験, レポート, 実習態度

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	5月28日	実習前講義	実験薬理学の方法論の概略，遂行上の諸注意（実験動物，薬物，器具類）を理解する。	桑島 治博 仲村健二郎 福井佳代子 中村 康則
2	5月30日	薬物投与方法	実験動物への各種薬物投与方法（腹腔内，皮下，経口）の手技を修得する。	
3	6月2日	全身麻酔薬(1) (吸入麻酔)	マウスに対する全身麻酔薬（吸入麻酔）の作用および麻酔前投薬の併用効果を観察し，中枢抑制作用を理解する。	
4	6月3日	全身麻酔薬(2) (静脈麻酔)	マウスに対する各種全身麻酔薬（静脈麻酔）の作用を比較観察し，中枢抑制作用を理解する。	
5	6月4日	ED ₅₀	マウスに対する薬物の用量依存的作用を観察し，薬物の作用強度を示す値（ED ₅₀ ）を理解する。	
6	6月6日	歯科用薬剤の皮膚・粘膜に対する作用	マウス皮膚および腸粘膜に対する歯科用薬剤の腐蝕・収れん作用を観察し，臨床上有益な作用と有害な作用を理解する。	
7	6月9日	二重盲検法	カフェインの精神運動興奮作用を観察し，二重盲検法の概要および真の薬効について理解する。	
8	6月10日	化学療法薬，抗炎症薬	DVD視聴により化学療法薬と抗炎症薬について薬物の分類，薬理作用および臨床応用を理解する。	
9	6月16日	実習後講義	各実習項目で観察された結果を教科書の知識と関連させて理解する。	
10	6月17日	論述・多肢選択試験	各実習項目における習熟度を自己確認する。	
11				
12				
13				
14				
15				
16				

歯科理工学

授業責任者：宮川行男

教科書：スタンダード歯科理工学・第5版・榎本貢三,中畠裕, 西山典宏, 宮崎 隆, 米山隆之 他編・学建書院

参考書：コア歯科理工学・第1版・小倉英夫 他編・医歯薬出版, 歯科理工学教育用語集・第2版・日本歯科理工学会編・医歯薬出版

一般目標：

歯科材料を適切に選択し、取り扱うことのできる歯科医師となるために、歯科修復や治療に使用される材料について、種類、用途、成分、構造、性質、ならびに基本的使用方法を習得する。

行動目標：

1. 鋳造用合金ならびに銀合金の種類と用途、基本組成、および性質について説明する。(D-1-①, D-2-①, ②, ⑥)
2. CAD/CAMを用いた修復物の作製方法と使用する材料の概要について説明する。(D-2-②, ⑥, E-3-4) -(1)-⑨)
3. 歯科用陶材の種類、成分、用途、性質、ならびに使用方法について説明する。(D-1-①, D-2-①, ②)
4. 焼付用陶材・合金の結合機構と陶材焼付用合金の特徴・種類について説明する。(D-2-⑥)
5. 義歯床用レジンの種類、成分、性質、ならびに重合方法・使用方法について説明する。(D-1-①, D-2-⑥)
6. 義歯床用裏装材の種類、成分、および特徴について説明する。(D-1-①, D-2-②)
7. 義歯床用合金の種類、成分、性質を説明する。(D-2-②, D-2-⑥, E-3-4) -(2)-⑩)
8. 義歯維持装置用材料の種類、成分、性質を説明する。(D-2-②, D-2-⑥, E-3-4) -(2)-⑩)
9. インプラント・歯周治療・口腔外科用材料の種類や基本的性質を説明する。(D-1-①, D-1-②, E-3-4) -(3)-①)
10. 保存治療に用いられる材料の種類、成分、および基本的性質を説明する。(D-2-⑦, E-3-3) -(1)-⑨, ⑪, E-3-3) -(2)-②)
11. 矯正用材料の種類、成分および基本的性質を説明する。(D-2-⑥, E-4-1) -(⑤)

学習方略：

講義

評価方法：

客観試験50%、記述試験、受講状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月15日	歯冠修復用合金 (1)	歯冠修復用合金の種類と用途、および特徴	後藤 真一
2	4月22日	歯冠修復用合金 (2)	鋳造用金合金の種類・組成と理工学的性質	
3	5月13日	歯冠修復用合金 (3)	鋳造用銀合金の種類・組成と理工学的性質	
4	5月20日	CAD/CAM用 材料	CAD/CAMによる修復物の製作方法とCAD/CAMに用いられる材料の種類・特性	
5	5月27日	歯冠修復用陶材 (1)	歯科用陶材、CAD/CAM用セラミックスの一般的性質、歯科用陶材の種類と用途、組成	大熊 一夫
6	6月3日	歯冠修復用陶材 (2)	長石系陶材・アルミナ陶材の性質、陶材の築盛・焼成法	
7	6月10日	歯冠修復用陶材 (3)	陶材焼付用金属の種類とその性質、金属と陶材の焼付機構	
8	6月17日	歯冠修復関連材 料	ポンティック材、支台築造材、テンポラリークラウン・ブリッジ材、適合検査材の使用目的、主成分および性質	
9	6月24日	義歯床用レジン (1)	義歯床用アクリルレジンの組成、性質、重合方法	赫多 清
10	7月1日	義歯床用レジン (2)	その他の床用レジンの組成、性質、成形方法義歯床用裏装材の組成、性質、成形方法	
11	7月8日	義歯床用合金	義歯床用合金の種類、組成と性質	宮川 行男
12	7月15日	義歯維持装置用 材料	義歯維持装置用材料の種類、成分と性質	
13	7月17日	インプラント・歯 周治療・口腔外 科用材料	インプラント・歯周治療・口腔外科用材料の種類と性質	
14	8月26日	保存治療用材料	根管充填材、覆髄材、裏装材、仮封材、歯周包帯材の種類、成分と性質	
15	9月2日	矯正用材料	矯正用材料の種類、成分と性質	
16				

ヒトと放射線

授業責任者：土持 眞

教科書：新歯科放射線学・編著 鹿島勇，土持眞，金田隆・医学情報社

参考書：エッセンス歯科放射線・塩島 勝 編集・学建書院

一般目標：

放射線を歯科医療で有効に利用し，それに伴うヒトへの障害を防止するために，放射線の性質とヒトへの影響を理解する。

行動目標：

1. 電離放射線の定義を説明する。(E-1-2) -①)
2. 医療に用いる放射線の種類を列挙する。(E-1-2) -①)
3. 電離放射線の性質を説明する。(E-1-2) -①)
4. 照射線量，吸収線量および実効線量の定義を説明する。(E-1-2) -①)
5. 放射性同位元素および放射能を説明する。(E-1-2) -①)
6. 電離放射線の測定的基本的原理を説明する。(E-1-2) -①)
7. 放射線影響の発現過程を説明する。(E-1-2) -②)
8. 放射線の細胞致死効果を説明する。(E-1-2) -②)
9. 組織および臓器に対する放射線影響を分類し説明する。(E-1-2) -②)
10. 人体に対する放射線影響を分類し説明する。(E-1-2) -②)
11. エックス線の発生を記述する。(E-1-2) -⑤)
12. エックス線撮影装置の構造とエックス線発生の原理を説明する。(E-1-2) -⑤)
13. エックス線投影の原則を具体的に述べる。(E-1-2) -④)
14. 被写体コントラストを説明する。(E-1-2) -④)
15. フィルムおよび増感紙の構造と性質を説明する。(E-1-2) -④)
16. 画像形成過程の概略を説明する。(E-1-2) -④)
17. 写真コントラストを説明する。(E-1-2) -④)
18. エックス線像の鮮鋭度を説明する。(E-1-2) -④)
19. 写真処理を説明できる。(E-1-2) -⑤)
20. 医療に用いるデジタル画像システムの種類をあげ説明する。(E-1-2) -⑤)
21. 画像検査時の感染防止対策を説明する。
22. 口内法エックス線撮影とパノラマエックス線撮影の特徴と種類を説明する。(E-1-2) -⑥，⑦)
23. 顔面頭蓋部のエックス線撮影法の特徴と種類を説明する。(E-1-2) -⑧)
24. 検査法の適応を判断でき目的に適した撮影法を選択する。(E-1-2) -⑥～⑨)

学習方略：

講義

評価方法：

記述試験，小テスト，レポート，出席状況，授業態度

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月10日	オリエンテーション	放射線学総論，歯科放射線学について	土持 眞
2	4月17日	放射線総論	電離放射線，非電離放射線，放射線の単位と測定	羽山 和秀
3	4月24日	医療におけるX線(1)	X線1：X線装置，X線の発生，X線の特性	
4	5月8日	医療におけるX線(2)	X線2：量とエネルギー X線3：物質との相互作用，X線の減弱 X線4：濾過，コリメーション	
5	5月15日	放射線の生体に対する影響(1)	生物作用1：作用機構 生物作用2：放射線感受性と修飾因子	土持 眞
6	5月22日	放射線の生体に対する影響(2)	生物作用3：細胞，組織・器官，個体，世代 生物作用4：低線量の生物作用	
7	5月29日	放射線とがん(1)	放射線とがんの分子生物学，放射線と細胞周期，修復	
8	6月5日	放射線とがん(2)	がんのイメージング	
9	6月12日	X線写真(1)	X線写真1：X線フィルム，増感紙，カセット X線写真2：暗室，写真処理，現像機	羽山 和秀
10	6月19日	X線写真(2)	X線写真3：黒化度，特性曲線，フィルムコントラスト，寛容度	
11	6月26日	X線写真像	X線像の形成，被写体コントラスト，写真コントラスト，写真像の幾何学，画質	
12	7月3日	画像検査(1)	二等分法，咬合法，平行法，咬翼法，偏心投影法	亀田 綾子
13	7月10日	画像検査(2)	回転パノラマ撮影法，口内線源パノラマ撮影法	佐々木善彦
14	8月28日	画像検査(3)	デジタル画像検査	土持 眞
15	9月4日	画像検査(4)	単純撮影法，高圧撮影法，セファロメトリー，断層撮影法，造影撮影法	佐々木善彦
16				

保存修復学

授業責任者：新海航一

教科書：保存修復学 第6版・千田 彰他・医歯薬出版

参考書：第4版 保存修復学21・田上順次他・永末書店

保存クリニカルガイド 第2版・千田 彰他・医歯薬出版

一般目標：

患者の歯の硬組織疾患を的確に修復し、長期にわたる歯の審美性・機能性を維持させるために、硬組織疾患の病因・病態、診査・検査・診断法、治療法ならびに予防法を理解し、歯の硬組織疾患の治療ならびに予防に必要な基本的知識を身につける。

行動目標：

1. 保存修復学の概念と目的を説明する。(E-3-3) -(1)-④, ⑥)
2. 歯の硬組織の構造と機能ならびに疾患と病態を説明する。(E-3-1) -③, E-3-2) -①, ②, E-3-3) -(1)-①, ③, ⑤)
3. 接着修復法の種類、適応症と禁忌症ならびに術式の概要を説明する。(E-3-3) -(1)-②, ③, ⑦)
4. 修復材料の一般的性質と選択基準を説明する。(D-1-①, ②, D-2-①, ②, E-3-3) -(1)-⑦)
5. 齲蝕をはじめとする歯の硬組織疾患の症状と適正な診査・検査・診断を説明する。(E-3-3) -(1)-①, ③, ⑤, ⑬)
6. 齲蝕活動性試験の意義と試験法の概要を説明する。(B-3-2) -①, ②, E-1-6) -(2)-①)
7. 歯の硬組織疾患に対して診断結果に基づいた的確な治療計画を立案する。(E-3-3) -(1)-②, ④, ⑦, ⑫, ⑬)
8. 感染歯質の識別と除去法を説明する。(E-3-3) -(1)-②)
9. 窩洞の名称、分類ならびに形態について説明する。(E-3-3) -(1)-⑩)
10. 硬組織切削用具の種類・用途を述べ、歯の精密切削に必要な理論と治療動作を説明する。(D-1-④, E-3-3) -(1)-⑩)
11. 歯冠修復時に必要な歯髄保護法とその重要性を説明する。(E-3-3) -(1)-⑨, ⑪)
12. 歯冠修復時に必要な前準備法とその意義について説明する。(E-3-3) -(1)-⑧)
13. 歯冠修復における接着の意義を述べ、接着のための被着面処理法を説明する。(D-2-⑦, E-3-3) -(1)-②, ④, ⑦)

学習方略：

講義

評価方法：

客観試験，出席状況，レポート，授業態度

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月10日	保存修復学とは、歯の硬組織の構造・機能	保存修復学の概念と目的、歯の硬組織の正常形態、構造、化学的組成、物理的性質、生理的変化と機能	新海 航一
2	4月17日	歯の硬組織疾患の病因と病態(1)	齲蝕症（エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕および根面齲蝕）の病因と病態	
3	4月24日	歯の硬組織疾患の病因と病態(2)	摩耗症、咬耗症、酸蝕症、歯の形成不全、歯の形態・形成異常、歯の破折・亀裂の病因と病態、歯の変色	
4	5月8日	接着修復法の種類と概要	接着修復法の種類、適応症と禁忌症、術式の概要、修復材料の一般的性質と選択基準	
5	5月15日	歯の硬組織疾患の診査・検査および診断	歯の硬組織疾患の臨床症状、各種診査・検査法および診断、齲蝕活動性試験の意義と試験法、診断結果に基づいた治療計画の立案法	
6	5月22日	象牙質知覚過敏	象牙質知覚過敏症の原因、診査・診断、処置法	鈴木 司郎
7	5月29日	齲蝕の処置法	エナメル質齲蝕と象牙質齲蝕の識別法および除去法	鈴木 雅也
8	6月5日	歯の硬組織の切削	診療設備、手用切削器具、回転用切削器械・器具、レーザーならびにエアブレイシブによる歯の切削法	
9	6月12日	窩洞形成(1)	窩洞の定義、分類ならびに構成と各部の名称	
10	6月19日	窩洞形成(2)	窩洞形態の具備すべき諸条件（窩洞外形、保持形態、抵抗形態、便宜形態、窩縁形態および窩洞の清掃）	
11	6月26日	歯髄保護法	修復時の歯髄傷害、歯髄保護法の種類と術式	
12	7月3日	修復のための前準備(1)	イニシャルプレパレーション、防湿法、歯間分離法	新海 航一
13	7月10日	修復のための前準備(2)	歯肉排除法、隔壁法、修復物の具備すべき形状	
14	8月28日	修復と接着(1)	接着の意義、歯質への接着	
15	9月4日	修復と接着(2)	修復物（金属、セラミックス）への接着	
16				

歯内療法学

授業責任者：五十嵐 勝

教科書：歯内治療学 第4版・中村 洋他編集・医歯薬出版

参考書：エンドドンティックス 第3版・須田英明，中村 洋編集主幹・永末書店
実践歯内療法学・Gunnar Bergenholtz et al・クインテッセンス出版株式会社
Principles and Practice of ENDODONTICS・Walton・Saunders
Pathways of the pulp・Cohen et al・Mostby

一般目標：

自分自身の歯で食を営むことで心身の健康を維持・増進させるために、歯の硬組織、歯髄、根尖歯周組織に生じる疾患について理解し、その治療によって歯を長期に保存するのに必要な知識を習得する。

行動目標：

1. 歯髄に対する主訴を的確に捉え、聴取した病歴、現症を説明する。(E-1-1) -⑦～⑨)
2. 口内法エックス線写真とパノラマエックス線写真を説明する。(E-1-2) -⑥)
3. 歯の外傷の症状と検査法を列記し、診断と治療法を説明する。(E-2-4) -②-②, ④)
4. 歯の発生、歯種別の形態の特徴および歯髄の構造と機能を説明する。(E-3-1) -①～④)
5. 歯、歯髄疾患の病因と病態、加齢変化、歯痛について説明する。(C-3-2) -②, ③, C-4-2) -③, C-4-4) -①, ②, C-4-6) -①, ②, E-2-4) -③-②, ③, E-3-2) -①～③, ⑥, E-3-3) -(1)-①, E-4-3) -②)
6. 象牙質知覚過敏症の病因、病態、診断および治療法を説明する。(E-3-3) -(4)-①)
7. 歯・歯髄の診査、検査、および診断を説明する。(E-1-1) -⑪, E-3-3) -(2)-①)
8. 歯髄保護の種類を述べ、その重要性を説明する。(E-3-3) -(1)-⑨)
9. 無菌的処置法の重要性と手術野の消毒、器材の消毒滅菌法を説明する。(C-3-1) -③, E-3-3) -(2)-①)
10. 歯髄疾患（根未完成歯を含む）の症状、診査、診断、治療計画、治療法、予後を説明する。(E-3-3) -(2)-①, ③, ⑤, E-4-2) -⑤, ⑥)

学習方略：

講義

評価方法：

論述試験，客観試験，出欠状況，ノート，ソクラテス授業

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	4月16日	歯内療法学とは、構造と機能、硬組織疾患(1)	歯内療法の定義、意義、目的、歯・歯周組織の構造と機能、歯内療法学のすべて、形態異常、形成不全、歯質の欠損	五十嵐 勝
2	4月23日	硬組織疾患(2)	齲蝕症、象牙質知覚過敏症の発生機序、組織変化、好発部位、原因、検査方法、臨床的分類、症状、鑑別診断 硬組織疾患の治療法：検査と診断、歯の切削法、処置方法	北島佳代子
3	5月7日	基本的術式の概要(1)	口腔診査法(問診)(プロトコール項目)	新井 恭子
4	5月14日	基本的術式の概要(2)	無菌的処置法、除痛法、齲蝕の処置法、仮封法	北島佳代子
5	5月21日	歯髄疾患の分類	歯髄疾患の臨床的分類、原因	
6	5月28日	歯髄疾患の症状(1)	歯髄疾患の臨床症状、歯髄充血、急性歯髄炎	五十嵐 勝
7	6月4日	歯髄疾患の症状(2)	慢性歯髄炎、歯髄壊死・壊疽、退行性病変 歯髄疾患の特徴と経過	
8	6月11日	歯髄疾患の診査・検査(1)	歯髄疾患の診査・検査(問診、視診、触診、打診、動揺度診、温度診)	北島佳代子
9	6月16日	歯髄疾患の診査・検査(2)	歯髄電気診、露髄検査、X線診、麻酔診、透照診、切削診、待機的診断、嗅診、化学診、他	
10	6月25日	歯髄疾患の診断と治療方針	歯痛錯誤と関連痛、歯髄の診断、除痛法、治療方針	新井 恭子
11	7月2日	歯髄疾患の治療(1)	緊急処置(フローチャート) 歯髄保存療法(歯髄鎮静消炎療法)	
12	7月9日	歯髄疾患の治療(2)	歯髄保存療法(間接覆髄、IPC、直接覆髄)	
13	7月16日	歯髄疾患の治療(3)	歯髄除去療法(断髄法)	五十嵐 勝
14	8月27日	歯髄疾患の治療(4)	歯髄除去療法(抜髄法)	
15	9月3日	感染根管	根尖性歯周組織疾患の概要、感染根管とは、根尖性歯周疾患の原因	
16				

歯周疾患治療学

授業責任者：佐藤 聡

- 教科書：臨床歯周病学・吉江弘正，伊藤公一，村上伸也，申基喆（編）・医歯薬出版
歯周病の検査・診断・治療計画の指針・特定非営利活動法人 日本歯周病学会 編集・医歯薬出版
歯周病専門用語集，特定非営利活動法人 日本歯周病学会 編集，医歯薬出版
- 参考書：歯周疾患と治療・長谷川 明・クインテッセンス出版
標準歯周病学・編集 鴨井 久一，山田 了，伊藤 公一・医学書院

一般目標：

歯周病学を理解するために，歯周組織についての知識を深め，さらに歯肉炎および歯周炎の病因，病態，検査法，診断，治療法について臨床で必要とされる基礎知識を習得する。

行動目標：

1. 歯周組織の発生，構造および機能を説明する。(E-3-1) -⑤)
2. 歯周疾患の発症とその進行について説明する。(E-3-2) -④)
3. 歯周疾患の初発因子と局所・全身的修飾因子を説明する。(E-3-2) -④，⑤)
4. 歯周病原細菌とその病原性について説明する。(E-3-2) -④，⑤)
5. 歯周疾患における免疫応答と組織変化について説明する。(E-3-2) -④)
6. 歯肉炎と歯周炎との定義，病態を説明する。(E-3-2) -④，E-3-3) -(3)-①)
7. 特殊な歯周疾患の病因，病態，症状を説明する。(E-3-2) -④，E-3-3) -(3)-①)
8. 歯周疾患の症状と徴候を説明する。(E-3-3) -(3)-①，⑥)
9. 歯周疾患の検査法を説明する。(E-3-3) -(3)-②)
10. 歯周疾患の治療の進め方を説明する。(E-3-3) -(3)-②，③)
11. 歯周基本治療を説明する。(E-3-3) -(3)-③)
12. 機械的・化学的口腔清掃法を説明する。(E-3-3) -(3)-③)
13. スケーリング・ルートプレーニングを説明する。(E-3-3) -(3)-③)

学習方略：

講義

評価方法：

客観試験，記述試験，出席状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	4月15日	歯周組織の構造と機能(1)	歯周組織の発生とその構造	佐藤 聡
2	4月22日	歯周組織の構造と機能(2)	歯周組織の形態とその機能	高塩 智子
3	5月13日	歯周疾患の概念	歯周疾患の発症とその進行	佐藤 聡
4	5月20日	歯周疾患の病因(1)	歯周疾患の初発因子と局所的・全身的修飾因子	
5	5月27日	歯周疾患の病因(2)	歯周病原細菌とその病原性	織田 洋武
6	6月3日	歯周疾患の病因(3)	歯周疾患における免疫応答と組織変化	沼部 幸博 (交換授業)
7	6月10日	歯周疾患の病態(1)	歯肉炎と歯周炎の定義, 特殊な歯肉炎/歯周炎の病態・原因	佐藤 聡
8	6月17日	歯周疾患の病態(2)	歯周炎と鑑別を要する疾患, 全身疾患との関連についての基礎知識(ペリオドンタルメディシン)	
9	6月24日	症状と徴候(1)	歯周疾患の症状と徴候の臨床的变化	織田 洋武
10	7月1日	症状と徴候(2)	歯周疾患の臨床症状の特徴と診断の留意点, 咬合性外傷	佐藤 聡
11	7月8日	歯周疾患の検査(1)	歯周疾患の検査と診断の意義と目的, 全身および口腔内・外の検査法	
12	7月15日	歯周疾患の検査(2)	歯周疾患に関する口腔内の各種検査法	
13	7月17日	歯周疾患の検査(3)	歯周疾患の疫学的評価に用いる各種指数, 口臭	両角 祐子
14	8月26日	治療計画と歯周治療への導入, 歯周基本治療(1)	歯周疾患の治療計画の立案に関する考え方 歯周病患者への対応と治療への導入 歯周基本治療の目的	佐藤 聡
15	9月2日	歯周基本治療(2)	口腔内清掃指導法(機械的・化学的プラークコントロール)	
16				

顎口腔機能診断学

授業責任者：小出 馨

教科書：チェアサイドで行う顎機能診査のための基本機能解剖・小出 馨，井出吉信 編・医歯薬出版

一般目標：

顎口腔機能を的確に診断するために，顎口腔系の構造と機能を精細に理解する。

行動目標：

1. 顎口腔系の機能と各構成要素の役割を説明する。(E-2-1) -②, ⑤, E-2-2) -③)
2. 咀嚼筋と前頸筋の機能を説明する。(E-2-1) -②)
3. 外舌筋の機能を説明する。(E-2-2) -②)
4. 内舌筋の機能を説明する。(E-2-2) -②)
5. 後頭部・側頸部筋群と表情筋の機能を説明する。(E-2-2) -②)
6. 顎関節の精細な構成と機能を説明する。(E-2-1) -⑤)
7. 顎関節各部の機能と下顎運動との関係を説明する。(E-2-2) -⑤, ⑥, E-2-2) -⑥)
8. 下顎に付着する靭帯の機能を説明する。(E-2-1) -②, ⑤)
9. Posselt's Figureと靭帯の役割を説明する。(E-2-1) -⑥, E-3-4) -(2)-⑨)
10. 摂食・嚥下機能と関連組織について説明する。(E-2-1) -⑧, E-4-3) -⑩)
11. 味覚の評価と唾液検査について説明する。(E-2-2) -④, ⑤)
12. 咬合と顎口腔系の調和について説明する。(E-2-2) -③)
13. 咬合と各種下顎運動との関係について説明する。(E-2-1) -⑥, E-3-4) -(2)-⑨)

学習方略：

講義，示説

評価方法：

客観試験・論述試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	4月10日	顎口腔系の機能	顎口腔系の機能と各構成要素の役割	小出 馨
2	4月17日	筋と下顎運動	咀嚼筋と前頸筋の機能	
3	4月24日	舌筋の機能(1)	外舌筋の機能	佐藤 利英
4	5月8日	舌筋の機能(2)	内舌筋の機能	
5	5月15日	後頭部・側頸部筋群と表情筋	後頭部・側頸部筋群と表情筋の機能	
6	5月22日	顎関節と下顎運動(1)	顎関節の精細な構成と機能	松島 正和
7	5月29日	顎関節と下顎運動(2)	顎関節各部の機能と下顎運動との関係	小出 馨
8	6月5日	靭帯と下顎運動	下顎に付着する靭帯の機能	水橋 史
9	6月12日	Posselt's Figure	Posselt's Figureと靭帯の役割	小出 馨
10	6月19日	摂食・嚥下機能	摂食・嚥下機能と関連組織	佐藤 利英
11	6月26日	味覚の機能	味覚の評価	高橋 睦
12	7月3日	顎口腔系の機能回復	顎機能に調和した咬合再構成の実際	浅野栄一郎
13	7月10日	咬合と下顎運動(1)	咬合と各種下顎運動(1)	小出 馨
14	8月28日	咬合と下顎運動(2)	咬合と各種下顎運動(2)	
15	9月4日	総括	前学期のまとめ	
16				

口腔顎顔面外科学

授業責任者：山口 晃

教科書：標準口腔外科学・第3版・野間ほか編集・医学書院

参考書：口腔外科学・第3版・白砂ほか編集・医歯薬出版

口腔顎顔面外科学・道ほか編集・医歯薬出版

最新口腔外科学・上野ほか編集・医歯薬出版

一般目標：

口腔顎顔面領域の疾患に対処するために、必要な疾患の基礎的知識を習得する。

行動目標：

1. 先天異常・後天異常を説明する。(E-2-3) -①, ②, E-2-4) -(1)-①)
2. 外傷(損傷)を説明する。(E-2-4) -(2)-①)
3. 炎症を説明する。(E-2-4) -(3)-①~③)
4. 嚢胞を説明する。(E-2-4) -(5)-④)
5. 腫瘍および腫瘍類似疾患を説明する。(E-2-4) -(5)-⑦, ⑧)
6. 唾液腺疾患を説明する。(E-2-4) -(7)-①, ②)
7. 顎関節疾患を説明する。(E-2-4) -(6)-①)
8. 神経性疾患・心因性疾患を説明する。(E-2-4) -(8)-①~④)
9. 血液疾患・出血性素因を説明する。(E-2-4) -(9)-①)
10. 口腔粘膜疾患を説明する。(E-2-4) -(4)-①)
11. 口腔に症状を現す全身疾患を説明する。(E-2-4) -(9)-②, ③, ⑤, ⑥)

学習方略：

講義

評価方法：

論述試験, 出席状況, 受講態度, レポート

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	4月11日	先天異常・後天異常	成因，分類，遺伝相談	山口 晃
2	4月18日	外傷（損傷）	原因，分類，症状，創傷治癒過程	
3	4月25日	炎症性疾患(1)	原因，症状，経過，分類	
4	5月9日	炎症性疾患(2)	炎症の種類，感染	高田 正典
5	5月16日	嚢胞性疾患	定義，分類，頻度，症状	佐藤 英明
6	5月23日	腫瘍および腫瘍類似疾患	定義，分類，病因，症状，診断法	山口 晃
7	5月30日	唾液腺疾患	唾液腺の種類，機能，疾患分類	戸谷 収二
8	6月6日	全身性疾患(2)	アレルギー，膠原病	森 和久
9	6月20日	神経性疾患・心因性疾患	三叉神経と顔面神経の分布，疾患分類	水谷 太尊
10	6月27日	神経性疾患各論	三叉神経痛，顔面神経麻痺	赤柴 竜
11	7月4日	血液疾患・出血性素因	血液の構成，止血・凝固機構	山口 晃
12	7月11日	口腔粘膜疾患	疾患分類と特徴	森 和久
13	7月18日	全身性疾患(1)	ウイルス感染症	
14	8月29日	顎関節疾患	顎関節の構造，機能，疾患分類	田中 彰
15	9月5日	全身性疾患(3)	先天異常症候群，系統的骨疾患	
16				

歯科矯正学

授業責任者：寺田員人

教科書：歯科矯正学第5版・相馬邦道他・医歯薬出版

一般目標：

患者の健康および生活の質の向上に資するため、不正咬合の予防と治療に関わる歯科矯正学および矯正歯科治療に関する基本的な知識と技術を習得する。

行動目標：

1. 矯正歯科治療の目的と意義を説明する。(E-4-1) -①)
2. 口唇・口腔の成長・発育による変化を説明する。(E-2-3) -③)
3. 歯・歯列・咬合の発育と評価法を説明する。(E-2-3) -③)
4. 頭蓋・顎顔面領域の成長・発育による変化を説明する。(E-2-3-③)
5. 口唇・口腔の成長・発育異常（不正咬合）による変化を説明する。(E-2-3) -④)
6. 頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）による変化を説明する。(E-2-3) -④)
7. 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明する。(E-2-4) -(1)-①)
8. 正常咬合の概念と成立・保持条件を説明する。(E-4-1) -②)
9. 不正咬合によって生じる障害を説明する (E-4-1) -③)
10. 不正咬合の原因と種類を説明する。(E-4-1) -④)
11. 不正咬合の診察と検査を説明する。(E-4-1) -④)
12. 不正咬合の診断と治療方針の立案を説明する。(E-4-1) -④)
13. 矯正歯科治療における抜歯の意義を説明する。(E-4-1) -④)
14. 矯正歯科治療に用いる器材の名称と使い方を説明する。(E-4-1) -⑤)

学習方略：

講義

評価方法：

客観試験，出席状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	4月11日	歯科矯正学とは？	歯科矯正学と矯正歯科治療の概論	寺田 員人
2	4月18日	成長発育(成育) (1)	成育の概論 脳頭蓋と顔面頭蓋の成育	亀田 剛
3	4月25日	成長発育(成育) (2)	上顎骨・下顎骨の成育	長谷川 優
4	5月9日	正常咬合	正常咬合の概念 正常咬合の成立とその保持条件	寺田 員人
5	5月16日	成長発育(成育) (3)	歯列と咬合の成育	長谷川 優
6	5月23日	不正咬合の種類	歯・歯列・咬合のとらえ方 不正咬合の種類	佐野奈都貴
7	5月30日	不正咬合の原因	不正咬合の原因のとらえ方 不正咬合の原因と症状	長谷川 優
8	6月6日	矯正歯科治療の概論不正咬合者の診察	矯正歯科治療の概論 医療面接と診察	寺田 員人
9	6月20日	不正咬合者の形態検査(1)	形態的検査(全身の検査, 顔面写真, 口腔内写真, 口腔模型, 画像検査)	
10	6月27日	不正咬合者の形態検査(2)	形態的検査 セファロ分析(1)	遠藤 敏哉
11	7月4日	不正咬合者の形態検査(3)	形態的検査 セファロ分析(2)	
12	7月11日	不正咬合者の機能検査	機能検査	寺田 員人
13	7月18日	総合診断	矯正歯科治療における抜歯, 治療方針の立案, 総合診断	
14	8月29日	症例分析のまとめ	医療面接から治療方針の立案・診断	
15	9月5日	材料・器具・機材	矯正用材料と器械・器具	
16				

第3学年 後期授業科目 目次

口 腔 腫 瘍 学	48
病 理 診 断 学 実 習	50
画 像 検 査 の 基 礎 と 応 用	52
保 存 修 復 学	54
歯 冠 鑄 造 修 復 学	56
歯 内 療 法 学	58
歯 周 疾 患 治 療 学	60
顎 口 腔 機 能 診 断 学	62
顎 口 腔 機 能 診 断 学 実 習	64
部 分 床 義 歯 補 綴 学	66
全 部 床 義 歯 補 綴 学	68
口 腔 顎 顔 面 外 科 学	70
歯 科 矯 正 学	72
歯 科 矯 正 学 実 習	74
小 児 歯 科 学	76
歯 科 症 候 学 演 習	78

口腔腫瘍学

授業責任者：岡田康男

教科書：口腔病理アトラス 第2版・高木 實 監修・文光堂

参考書：スタンダード口腔病態病理学 第2版・賀来 亨，槻木恵一 編著・学建書院

一般目標：

口腔・顎・顔面領域に発現する腫瘍，腫瘍類似疾患や鑑別を要する疾患についてマクロ・ミクロ・分子病理学的に病態ならびに各種診断手技を理解する。

行動目標：

1. 腫瘍の病因と病態を説明する。(C-4-5) -①~⑥)
2. 病理組織診断（生検と剖検）の目的・意義と標本作製の方法（細胞診と組織診）の基本的な手技を説明する。(E-1-1) -①, ⑦, ⑧, ⑪, ⑮, E-2-4) -③-③)
3. 病理診断依頼書，剖検依頼書の作成手順およびCPCを説明する。(E-1-1) -⑦, ⑧)
4. 腫瘍の分子標的治療を目的としたコンパニオン診断を説明する。(E-1-1) -①, ②, ⑪)
5. 口腔・顎・顔面領域の腫瘍における病因・病態をマクロ・ミクロ的および分子病理学的に説明する。(E-2-4) -⑤-⑤~⑦, ⑫, ⑬, E-2-4) -⑦-③, E-2-4) -⑨-①, ④)
6. 口腔・顎・顔面領域の腫瘍類似疾患や腫瘍と鑑別を要する疾患を説明する。(E-2-4) -③-①~⑤, ⑦, ⑧, E-2-4) -④-①, ②, E-2-4) -⑤-①~⑪, E-2-4) -⑦-①, ②, ⑤, E-2-4) -⑨-④~⑦)
7. 臨床診断に質的な病理診断情報を加えた総合的な最終診断について説明する。(E-1-1) -⑮)
8. 病理組織診断報告書（患者の病態の質的情報の記載）の作成手順を説明する。(E-1-1) -⑮)

学習方略：

講義，示説

評価方法：

レポート，ソクラテス授業，出席状況，客観試験

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月3日	生検，細胞診，手術検体の診断	生検，細胞診，術中迅速病理診断検査，手術検体の取り扱い，切り出し，標本作製から診断まで	岡田 康男
2	10月10日	コンパニオン診断，剖検	分子標的治療を目的とした診断（コンパニオン診断），ヒトの死，剖検，CPC	
3	10月17日	口腔癌，口唇癌，上顎洞癌	口腔，口唇，上顎洞癌の発生，増殖，浸潤，頸部リンパ節転移，遠隔臓器転移，重複癌，転移癌	
4	10月24日	口腔癌の分子病理	癌幹細胞，癌抑制遺伝子，キメラ遺伝子，micro-RNA，上皮間葉移行，間葉上皮移行	
5	10月31日	前癌病変，前癌状態と鑑別疾患	上皮性異形成，白板症，紅板症，扁平苔癬，Plummer-Vinson症候群，粘膜下線維症，梅毒，結核，放線菌症，真菌症	
6	11月7日	唾液腺腫瘍	多形腺腫・由来癌，筋上皮腫・癌，ワルチン腫瘍，腺様嚢胞癌，粘表皮癌，腺房細胞癌，唾液腺導管癌	長尾 俊孝
7	11月14日	唾液腺腫瘍と鑑別を要する疾患	唾液腺炎，キュットナー腫瘍，IgG4関連疾患，シェーグレン症候群，壊死性唾液腺化生，唾石	岡田 康男
8	11月21日	歯源性腫瘍	エナメル上皮腫，石灰化上皮性歯源性腫瘍，腺腫様歯源性腫瘍，角化嚢胞性歯源性腫瘍，石灰化嚢胞性歯源性腫瘍，歯牙腫，歯源性線維腫・粘液腫	
9	11月28日	歯源性腫瘍と鑑別を要する疾患	歯源性嚢胞，非歯源性嚢胞，唾液停滞嚢胞，頭蓋咽頭腫	
10	12月5日	非歯源性腫瘍と腫瘍様病変(1)	乳頭腫，黄色腫，血管・リンパ管腫，線維腫，エプーリス，線維上皮性ポリープ，義歯性線維腫	
11	12月12日	非歯源性腫瘍と腫瘍様病変(2)	脂肪腫，顆粒細胞腫，切断神経腫，神経鞘腫，神経線維腫，多発性神経内分泌腫瘍症（MEN）	
12	12月19日	肉腫とその分子病理	軟骨肉腫，骨肉腫，横紋筋肉腫，平滑筋肉腫，滑膜肉腫，脂肪肉腫，キメラ遺伝子	岡田 康男
13	1月16日	色素性腫瘍と鑑別疾患	悪性黒色腫，母斑，メラニン沈着症，巨細胞性病変，乳児色素性神経外胚葉性腫瘍，金属刺青	
14	1月23日	顎骨の非歯源性腫瘍，類似疾患と鑑別疾患	類骨骨腫，骨腫，外骨症，骨芽細胞腫，セメント芽細胞腫，線維性骨異形成症，滑膜軟骨腫症，ビスフォスフォネート関連顎骨壊死，骨髄炎	
15	1月30日	白血病，悪性リンパ腫，鑑別疾患とその分子病理	急性・慢性白血病，悪性リンパ腫，組織球性壊死性リンパ節炎，頸部リンパ節結核，キメラ遺伝子，Bcl-2，遺伝子再構成	
16				

病理診断学実習

授業責任者：岡田康男

教科書：病態病理診断学実習書（日本歯科大学新潟生命歯学部 病理学講座）

参考書：口腔病理アトラス 第2版・高木 實 監修・文光堂

スタンダード口腔病態病理学 第2版・賀来 亨，槻木恵一 編著・学建書院
標準病理学 第4版・坂本穆彦，北川昌伸，仁木利郎 編・医学書院

一般目標：

歯科医師として必要な口腔・顎・顔面領域に発現する疾患の病態・病理を理解する。

行動目標：

1. 齲蝕症の所見から齲蝕症とそれに継発する歯髄の急性や慢性的炎症の病態・病理を説明する。
2. 齲蝕の拡大・進展と関連づけて根尖性歯周炎と辺縁性歯周炎の病態・病理を説明する。
3. 歯原性・非歯原性嚢胞の病態・病理を説明する。
4. 口腔・顎・顔面領域の軟組織と硬組織での生体防御（炎症や免疫反応）と関連する疾患の病態・病理を説明する。
5. 口腔・顎・顔面領域の腫瘍様病変の病態・病理を説明する。

学習方略：

実習，講義，示説

評価方法：

レポート，口頭試験，出席状況，客観試験

(単位数：1.0)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月1日	齲蝕・歯髄炎	エナメル質齲蝕, 象牙質齲蝕, 慢性増殖性歯髄炎	岡田 康男 東理 頼亮 大窪 泰弘 石黒 仁江 青柳 秀一 林 俊郎 木暮 ミカ 富田 達洋 野原 史子 小澤 一嘉 森出美智子 長谷川 仁
2	10月8日	歯周疾患, 奇形腫	根尖性歯周炎, 辺縁性歯周炎, 奇形腫	
3	10月22日	口腔粘膜疾患(1)	急性偽膜性カンジダ症, 顎放線菌症, 尋常性天疱瘡	
4	10月29日	口腔粘膜疾患(2)	白板症, 上皮性異形成, 扁平苔癬	
5	11月5日	唾液腺疾患	シェーグレン症候群, 粘液嚢胞, キュットナー腫瘍	
6	11月12日	唾液腺良性腫瘍	多形腺腫, ワルチン腫瘍	
7	11月19日	唾液腺悪性腫瘍	腺様嚢胞癌, 粘表皮癌	
8	11月26日	歯源性嚢胞	歯根嚢胞, 含歯性嚢胞, 腺性歯源性嚢胞	
9	12月3日	非歯源性嚢胞	鼻口蓋管嚢胞, 類皮・類表皮嚢胞, リンパ上皮性嚢胞	
10	12月10日	歯源性腫瘍と類似疾患	エナメル上皮腫, 石灰化嚢胞性歯源性腫瘍, 歯牙腫, 頭蓋咽頭腫	
11	12月17日	歯源性腫瘍	角化嚢胞性歯源性腫瘍, 腺腫様歯源性腫瘍, 歯源性石灰化上皮腫	
12	1月7日	非歯源性腫瘍・類似疾患	扁平上皮癌, 乳頭腫, エプーリス	
13	1月14日	顎骨の病変	線維性骨異形成症, 開花性セメント質異形成症	
14	1月21日	その他	悪性リンパ腫, 頸部リンパ節結核, 血管腫	
15	1月28日	論述・多肢選択試験	各実習項目における理解度の自己確認	
16				

画像検査の基礎と応用

授業責任者：土持 眞

教科書：歯科臨床における画像診断アトラス・日本歯科放射線学会編・医歯薬出版株式会社

一般目標：

適切な画像診断を行うために、歯・口腔顎顔面領域疾患の画像所見の特徴を理解し、また口腔領域悪性腫瘍の放射線治療および治療患者の口腔管理の重要性を認識するために、放射線治療の基礎と実際を理解する。

行動目標：

1. エックス線CT, 磁気共鳴撮像法 (MRI), 超音波画像法の画像形成原理, 特徴が説明でき, 検査の適応が判断できる。(E-1-2) - ⑨)
2. 核医学検査, シンチグラフィの撮像原理を説明でき, 主なシンチグラフィを列挙し, その適応を説明できる。(E-1-2) - ⑨)
3. PET (ポジトロン断層撮影法) の概要を述べられる。
4. ラジオイムノアッセイの概要を述べられる。
5. 画像情報を整理分析する。
6. 画像診断の過程の特徴を説明する。
7. エックス線写真読影に必要な基本的事項を説明する。
8. 口内法およびパノラマエックス線像における正常解剖構造を図示して説明する。(E-1-2)-⑥, ⑦)
9. その他の検査画像における主な正常解剖構造を説明する。
10. 口腔顎顔面領域の疾患の病態と部位に応じた画像検査法を説明する。
11. 齲蝕, 歯周疾患, 根尖部の病変および歯の形態や構造の異常を表す画像所見を解釈する。
12. 顎骨の炎症, 骨折, 顎骨の嚢胞, 良性腫瘍および類似疾患のエックス線像を解釈する。
13. 悪性腫瘍, 上顎洞病変, 顎関節病変, 唾液腺病変の各種画像所見の特徴を説明する。
14. 全身疾患に関連する歯, 口腔顎顔面病態の各種画像所見の特徴を説明する。
15. 顔面, 頸部の軟組織疾患の各種画像所見の特徴を説明する。
16. 悪性腫瘍の基本構造と発育動態の概要および悪性腫瘍と正常組織の放射線感受性を説明する。
17. 治療可能比と放射線治療の適応を説明する。
18. TNM分類と病期分類 (UICC, 1997) および放射線治療の種類と適応を説明する。
19. 併用療法および治療成績と予後の概要を説明する。
20. 放射線治療患者の副作用と口腔管理を説明する。
21. 放射線防護の基本概念と放射線防護に用いられる線量の定義を説明する。(E-1-2) - ③)
22. 放射線被曝を分類し, 放射線影響のリスクと患者の防護を説明する。(E-1-2) - ③)
23. 医療従事者の放射線防護の原則と歯科エックス線検査時の患者の防護を説明する。(E-1-2) - ③)

学習方略：

講 義

評価方法：

記述試験, 小テスト, レポート, 出席状況, 授業態度

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月3日	画像検査(5)	C T断層法	佐々木善彦
2	10月10日	画像検査(6)	核医学検査法	土持 眞
3	10月17日	画像検査(7)	磁気共鳴法	
4	10月24日	画像検査(8)	超音波検査法	亀田 綾子
5	10月31日	画像診断総論 (1), (2)	画像診断の目的画像観察と所見の分析, 画像所見の解釈と記録	土持 眞
6	11月7日	顎・顔面部の画像診断(1), (2)	外傷, 炎症	佐々木善彦
7	11月14日	顎・顔面部の画像診断(3)	嚢胞, 良性腫瘍, 顎骨の腫瘍類似疾患	土持 眞
8	11月21日	顎・顔面部の画像診断(4), (5)	悪性腫瘍	
9	11月28日	顎・顔面部の画像診断(6)	上顎洞疾患	
10	12月5日	顎・顔面部の画像診断(7)	唾液腺疾患	
11	12月12日	顎・顔面部の画像診断(8)	系統疾患, その他	亀田 綾子
12	12月19日	放射線治療(1)	放射線治療総論	土持 眞
13	1月16日	放射線治療(2)	頭頸部悪性腫瘍の放射線治療	
14	1月23日	放射線防護(1)	放射線防護と管理 I	羽山 和秀
15	1月30日	放射線防護(2)	放射線防護と管理 II	
16				

保存修復学

授業責任者：新海航一

教科書：保存修復学 第6版・千田 彰他・医歯薬出版

参考書：第4版 保存修復学21・田上順次他・永末書店

保存クリニカルガイド 第2版・千田 彰他・医歯薬出版

一般目標：

患者の歯の硬組織疾患を的確に修復し、長期にわたる歯の審美性・機能性を維持させるために、硬組織疾患の病因・病態，診査・検査・診断法，治療法ならびに予防法を理解し，歯の硬組織疾患の治療ならびに予防に必要な基本的知識を身につける。

行動目標：

1. コンポジットレジン組成，種類（分類）ならびに諸性質を説明する。（D-1-①，D-2-①，E-3-3）-(1)-⑦
2. コンポジットレジン修復の臨床的特徴および操作法を説明する。（E-3-3）-(1)-②
3. グラスアイオノマーセメント組成，種類（分類）ならびに諸性質を説明する。（D-1-①，D-2-①，E-3-3）-(1)-⑦
4. グラスアイオノマーセメント修復の臨床的特徴および操作法を説明する。（E-3-3）-(1)-②
5. 各種修復材料と歯質の接着方法ならびに接着メカニズムを説明する。（D-2-⑦，E-3-3）-(1)-②
6. アマルガム修復の概要を説明する。（D-1-①，D-2-①，E-3-3）-(1)-②，E-3-3）-(1)-⑦
7. メタルインレー修復の臨床的特徴および操作法を説明する。（D-1-①，D-2-①，D-2-③，E-3-3）-(1)-②，E-3-3）-(1)-⑦
8. 鋳造法によるメタルインレーの作製方法を説明する。（D-2-④～⑥）
9. セラミックインレー修復の臨床的特徴および操作法を説明する。（D-1-①，D-2-①，E-3-3）-(1)-②，E-3-3）-(1)-⑦
10. ラミネートベニア修復の臨床的特徴および操作法を説明する。（D-2-①，E-3-3）-(1)-⑦，E-3-3）-(2)-⑦
11. 合着用セメントと接着用セメントの種類と所要性質を説明する。（D-2-⑦）
12. 間接法修復物の合着と接着について説明する。（D-2-⑦，E-3-3）-(1)-②
13. 変色歯の原因，診査・診断および漂白法について説明する。（E-3-3）-(2)-⑦
14. 象牙質知覚過敏症の原因，症状，診査・診断および処置法を説明する。（E-3-3）-(4)-②

学習方略：

講義

評価方法：

客観試験，出席状況，レポート，授業態度

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月7日	コンポジットレジン修復(1)	コンポジットレジンの組成, 種類 (分類)	新海 航一
2	10月14日	コンポジットレジン修復(2)	コンポジットレジンの重合と光照射器, 光重合型コンポジットレジン修復の特徴	
3	10月21日	コンポジットレジン修復(3)	コンポジットレジン修復の適応症・禁忌症, 窩洞, 臨床的操作法 (歯面接着処理, 填塞, 仕上げ研磨)	
4	10月28日	コンポジットレジン修復(4)	修復歯の予後, コンポジットレジンを用いた補修修復	
5	11月4日	コンポジットレジン修復(5)	新しい器材によるコンポジットレジン修復	奈良陽一郎
6	11月11日	ガラスアイオノマーセメント修復(1)	ガラスアイオノマーセメントの組成, 種類 (分類), 硬化機序, 諸性質	新海 航一
7	11月18日	ガラスアイオノマーセメント修復(2)	ガラスアイオノマーセメント修復の特徴と適応症・禁忌症, 窩洞, 臨床的操作法 (窩洞前処理, 填塞, 仕上げ・研磨), 予後	
8	11月25日	アマルガム修復	アマルガムの組成と硬化機序, アマルガム修復の特徴と適応症・禁忌症, 窩洞と歯髄保護, 臨床的操作法, 予後	鈴木 雅也
9	12月2日	メタルインレー修復(1)	メタルインレー修復の特徴と適応症・禁忌症, 窩洞, 印象材の種類と印象採得法	
10	12月9日	メタルインレー修復(2)	メタルインレーの製作法 (模型調製法, 蝸型調製法, 埋没前準備, 埋没法, 鋳造法, 鋳造体の仕上げ・研磨), 予後	
11	12月16日	セラミックインレー修復	セラミックスの組成, セラミックインレーの製作法の種類, セラミックインレー修復の特徴と適応症・禁忌症, 窩洞の特色, 臨床的操作法, 予後	
12	1月13日	ラミネートベニア修復	ラミネートベニア修復の定義, 修復法の種類と特徴, 適応症・禁忌症, ベニア窩洞の特色, 臨床的操作法, 予後	新海 航一
13	1月20日	修復物の合着と接着	各種合着用セメントと接着用セメントの種類, 所要性質, 各種間接法修復物の合着と接着	
14	1月27日	変色歯の漂白法	歯の変色の原因と色調, 漂白のメカニズム, 各種漂白法の種類, 特徴, 適応症・禁忌症, 予後	
15				
16				

歯冠鑄造修復学

授業責任者：渡邊文彦

教科書：クラウンブリッジ補綴学第4版・石橋寛二，川添堯彬，川和忠治，福島俊治，三浦宏之，
矢谷博文編・医歯薬出版

参考書：歯科補綴学専門用語集・日本補綴歯科学会・医歯薬出版
新常用歯科辞典・中原 泉・医歯薬出版

一般目標：

歯質の崩壊や歯の欠損に起因する顎口腔機能障害を回復し，QOLを維持するクラウンブリッジ補綴を行うために，顎口腔機能障害の機序を理解し，その診断と治療計画の立案に必要な基本的知識を習得する。

行動目標：

1. クラウンブリッジ補綴学の定義と特徴を説明する。(E-3-4) -(1)-①)
2. 咬合，歯周組織の正常像を説明する。(E-3-4) -(1)-⑫)
3. 歯質の崩壊や歯の欠損による咬合咀嚼障害の病態を説明する。(E-3-4) -(1)-⑫)
4. クラウンブリッジ補綴治療計画に必要な診査，検査，診断を説明する。(E-3-4) -(1)-⑫)
5. クラウンブリッジ補綴治療に関する感染予防を説明する。(C-2-4) -⑥，E-3-4) (1)-⑥)
6. クラウンブリッジ補綴治療計画を立案する。(E-3-4) -(1)-⑫)
7. クラウンの種類と特徴を説明する。(E-3-4) -(1)-②，E-3-4) -(1)-④)
8. ブリッジの種類と特徴を説明する。(E-3-4) -(2)-②，E-3-4) -(1)-⑬，E-3-4) -(1)-⑭)
9. ポンティック基底面形態の種類を説明する。(E-3-4) -(2)-②)
10. ブリッジの連結法を説明する。(E-3-4) -(2)-⑥，⑭)
11. クラウンブリッジの前処置について説明する。(E-3-4) -(1)-③，⑥，⑭)
12. クラウンブリッジの生存率を説明する。(E-3-4) -(1)-⑮)

学習方略：

講義

評価方法：

客観試験50%，記述試験，受講状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月3日	クラウンブリッジ治療の定義と意義	クラウンブリッジ治療による特徴を理解	渡邊 文彦
2	10月10日	顎口腔系機能と健康科学	クラウンブリッジ治療による顎口腔系機能の回復, QOLの向上と維持とのかかわり	
3	10月17日	クラウンブリッジ補綴学の定義	隣接歯科医学とクラウンブリッジ補綴学のかかわり, 歯と歯周組織の構造	
4	10月24日	病因と病態	歯質欠損による咬合咀嚼障害の病因と病態	
5	10月31日	症状と徴候	咬合咀嚼障害の症状と徴候	
6	11月7日	診察と診断(1)	歯の欠損による咬合咀嚼障害の症状と徴候, 検査と診断	
7	11月14日	診察と診断(2)	歯質欠損と歯の欠損による咬合咀嚼障害の症状と徴候, 検査と診断	
8	11月21日	クラウンの種類と構成(1)	クラウンによる歯冠鑄造修復法の分類, その意義と特徴(1)	
9	11月28日	クラウンの種類と構成(2)	クラウンによる歯冠鑄造修復法の分類, その意義と特徴(2)	
10	12月5日	ブリッジの種類と構成(1)	ブリッジによる歯冠鑄造修復法の分類, その意義と特徴(1)	
11	12月12日	ポンティック基底面形態の種類	ポンティック基底面形態の種類と適応	
12	12月19日	ブリッジの連結法と設計(1)	ブリッジの連結方法とブリッジの設計(1)	
13	1月16日	ブリッジの連結法と設計(2)	ブリッジの連結方法とブリッジの設計(2)	
14	1月23日	前処置	クラウンブリッジ治療と隣接歯科治療	
15	1月30日	クラウンブリッジ補綴学のEBMとまとめ	EBMによる顎口腔系機能に関する調査内容, 予後の判定と講義全般の総括	
16				

歯内療法学

授業責任者：五十嵐 勝

教科書：歯内治療学・第4版・中村 洋他編集・医歯薬出版

参考書：エンドドンティックス・第3版・須田英明，中村 洋編集主幹・永末書店
実践歯内療法学・Gunnar Bergenholtz et al.・クインテッセンス出版株式会社
Principles and Practice of ENDODONTICS・Walton・Saunders
Pathways of the pulp・Cohen et al・Mostby

一般目標：

自分自身の歯で食を営むことで心身の健康を維持・増進させるために、歯の硬組織、歯髄、根尖歯周組織に生じる疾患について理解し、その治療によって歯を長期に保存するのに必要な知識を習得する。

行動目標：

1. 根尖歯周組織に対する主訴を的確に捉え、聴取した病歴、現症を説明する。(E-1-1) -⑦～⑨)
2. 口内法エックス線写真とパノラマエックス線写真を説明する。(E-1-2) -⑥)
3. 根尖歯周組織疾患の病因と病態，加齢変化，歯痛について説明する。(C-3-2) -②，③，C-4-4) -①～④，C-4-6) -①，②，E-2-4) -③-①～⑨，E-3-2) -③，⑥，E-4-3) -②)
4. 根尖歯周組織の診査，検査および診断を説明する。(E-1-1) -⑪，E-3-3) -(2)-①)
5. 歯髄・根尖歯周組織疾患（根末完成歯を含む）の症状，診査，診断，治療計画，治療法，予後を説明する。(E-1-3) -(3)-⑤，E-3-3) -(2)-①，③，⑤，⑥，E-4-2) -⑤，⑥)
6. 根管充填の目的，時期および方法を説明する。(E-3-3) -(2)-②)
7. 歯髄・根尖歯周組織疾患治療時の偶発症について種類，処置および予防を説明する。(E-3-3) -(2)-④)
8. 歯内-歯周疾患の病因，病態，症状，診査，診断，治療，予後について説明する。(E-3-3) -(3)-②)
9. 歯の変色，歯根吸収の原因，種類，症状，診断および処置を説明する。(E-3-3) -(2)-⑦，⑧)
10. 高齢者や全身疾患を有する者における歯内治療の特徴，留意点について説明する。(E-4-3) -②，③)

学習方略：

講義

評価方法：

論述試験，客観試験，出欠状況，ノート，ソクラテス授業

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月7日	根尖性歯周組織疾患(1)	根尖性歯周組織疾患の臨床的分類，進行と経過	五十嵐 勝
2	10月14日	根尖性歯周組織疾患(2)	根尖性歯周疾患の診査・検査	
3	10月21日	根尖性歯周組織疾患(3)	根尖性歯周疾患の臨床病理と臨床症状，診断法	
4	10月28日	根尖性歯周組織疾患(4)	根尖性歯周疾患の治療方針，緊急処置，症例の選択	新井 恭子
5	11月4日	根管処置(1)	根管処置の前準備（髓室開拓），根管拡大形成の手用小器具，根管長測定と作業長決定，機械的清掃	北島佳代子
6	11月11日	根管処置(2)	化学的清掃，根管の消毒（根管貼薬），意義，使用薬剤，貼薬術式，仮封	
7	11月18日	根管処置(3)	根管内容物の検査（根管内細菌培養検査，浸出液の検査），感染根管治療の補助療法	
8	11月25日	根管処置(4)	根管充填の目的，時期，所要性質，種類，根管充填の術式，即時根管充填法，治癒経過	
9	12月2日	根管処置(5)	NiTiロータリーファイルによる根管治療	
10	12月9日	根未完成歯の治療，高齢者の歯内治療	アペキソゲネーシス，アペキシフィケーション，高齢者の歯内治療の特徴，加齢変化，治癒能力	新井 恭子
11	12月16日	歯根の病的吸収，外傷歯の診断と処置	病的吸収の分類，原因，症状と診断，処置，外傷歯の分類，診断，治療	五十嵐 勝
12	1月13日	外科的歯内治療，顕微鏡応用，歯内歯周病変	外科的歯内治療の適応症と種類，術式と予後 手術用顕微鏡による検査，特徴，適応症 歯内疾患と歯周疾患の関連性，分類，診査治療	
13	1月20日	変色歯の漂白，根管処置後の修復	漂白法の原因，適応と禁忌，メカニズム，支台築造と歯冠修復	
14	1月27日	偶発事故と安全対策	穿孔，残髄炎，異常出血，根管内器具破折，誤飲と吸引，皮下気腫，根管処置後の急性炎，歯性上顎洞炎，全身管理，溢出・化学的損傷	
15				
16				

歯周疾患治療学

授業責任者：佐藤 聡

- 教科書**：臨床歯周病学，吉江弘正，伊藤公一，村上伸也，申基喆（編）医歯薬出版
歯周病の検査・診断・治療計画の指針，特定非営利活動法人 日本歯周病学会 編集，医歯薬出版
歯周病専門用語集，特定非営利活動法人 日本歯周病学会 編集，医歯薬出版
- 参考書**：コーエン審美再建歯周外科アトラス，Edward S. Chohen著，鴨井久一他訳，西村書店
標準歯周病学・編集 鴨井 久一，山田 了，伊藤 公一，医学書院

一般目標：

歯周病学を理解するために，歯周組織についての基礎的な知識を深め，さらに歯肉炎および歯周炎の治療法について臨床で必要とされる基礎知識を習得する。

行動目標：

1. スケーリング・ルートプレーニングを説明する。(E-3-3) - (3)-③)
2. 再評価の意義と目的，および治療計画の修正を説明する。(E-3-3) - (3)-②)
3. 歯周外科治療の目的を説明する。(E-3-3) - (3)-④，⑤)
4. 各種歯周外科手術の適応症，禁忌症，術式を説明する。(E-3-3) - (3)-④)
5. 根分岐部病変，原因，検査法，診断，治療法を説明する。(E-3-3) - (3)-③，④)
6. 咬合調整の原則，時期，術式を説明する。(E-3-3) - (3)-③)
7. 暫間固定，永久固定を説明する。(E-3-3) - (3)-③)
8. 特殊な歯周疾患の病態，治療法を説明する。(E-3-3) - (3)-③)
9. 歯周治療における薬物療法を説明する。(E-3-3) - (3)-③)
10. 歯周疾患のメンテナンス治療の意義と目的を説明する。(E-3-3) - (3)-③)

学習方略：

講義

評価方法：

客観試験，記述試験，出席状況

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月7日	歯周基本治療(3)	スケーラーの構造・種類・使用方法	佐藤 聡
2	10月14日	歯周基本治療(4)	歯周ポケット搔爬・咬合機能回復，知覚過敏症に対する処置，生活習慣・悪習癖の改善	
3	10月21日	再評価	歯周基本治療後の再評価，治療計画の修正	
4	10月28日	歯周外科治療(1)	歯周ポケット搔爬術，新付着術〔ENAP〕，歯肉切除術，歯肉整形術	
5	11月4日	歯周外科治療(2)	フラップ手術と歯周外科後の創傷治癒	
6	11月11日	歯周外科治療(3)	歯肉歯槽粘膜形成術（小帯切除術と切断術，歯肉弁移動術，口腔前庭形成〔拡張〕術）	
7	11月18日	歯周外科治療(4)	歯肉歯槽粘膜形成術（遊離歯肉移植術，歯肉結合組織移植術）	
8	11月25日	歯周外科治療(5)	歯槽骨に対する処置 骨整形術，骨切除術，骨移植術	
9	12月2日	歯周外科治療(6)	歯周組織再生療法の基本概念，適応症，術式	鴨井 久博
10	12月9日	根分岐部病変の処置	根分岐部病変の治療計画，手技，術後管理	両角 祐子
11	12月16日	歯周治療における咬合治療	咬合調整と歯冠形態修正，暫間固定と永久固定，矯正治療，歯冠修復と欠損補綴	佐藤 聡
12	1月13日	特殊な歯周疾患の治療	特殊な歯周疾患の診断と治療	
13	1月20日	薬物療法	全身的・局所的薬物療法，ティッシュエンジニアリング	
14	1月27日	メンテナンス治療	メンテナンス治療の意義と目的 メンテナンス来院時の検査と治療	
15				
16				

顎口腔機能診断学

授業責任者：小出 馨

教科書：臨床機能咬合学－咬合の7要素によるオクルージョンの臨床－・小出 馨 編・医歯薬出版

一般目標：

顎口腔機能の的確な検査法と診断基準，ならびに顎関節症の診断と治療法を理解するために，顎口腔機能と調和した咬合構成基準を習得する。

行動目標：

1. 各種顎口腔機能検査法と診断基準を説明する。(E-1-1) -①)
2. 各種咬合器の構造と特徴について説明する。(E-3-4) -(1)-⑧)
3. フェイスボウトランスファーの意義と操作法について説明する。(E-3-4) -(1)-⑩)
4. チェックバイトの意義と臨床応用基準を説明する。(E-3-4) -(1)-⑪, E-3-4) -(2)-⑨)
5. 効果的な咬合器の調節法と操作法について説明する。(E-3-4) -(1)-⑪)
6. 中心咬合位の位置，接触関係，安定性について説明する。(E-2-4) -(10)-①)
7. 偏心位でのガイド部位と方向，咬合平面の位置と彎曲度について説明する。(E-2-4) -(10)-①)
8. 咀嚼系筋群の検査と評価法について説明する。(E-2-1) -②)
9. 顎関節の検査と評価法について説明する。(E-2-1) -⑤)
10. 顎関節症の原因・症状・病態を説明する。(E-2-4) -(6) -①)
11. 顎関節症の症型分類を説明する。(E-2-4) -(6)-②)
12. マニピュレーションテクニックを説明する。(E-2-4) -(6)-②)
13. スプリント療法について説明する。(E-2-4) -(6)-②)
14. 理学療法，薬物療法について説明する。(E-2-4) -(6)-②)
15. 補綴装置の検査と評価法について説明する。(E-3-4) -(2)-⑬, ⑭)

学習方略：

講義，示説

評価方法：

客観試験・論述試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月1日 (16:20～ 17:50)	顎口腔機能検査・診断	各種顎口腔機能診査・検査・診断の概説	小出 馨
2	10月7日	印象採得と診断用模型の製作	印象採得と診断用模型製作の基準	近藤 敦子
3	10月14日	フェイスボウトランスファー	フェイスボウトランスファーの意義と操作法	佐藤 利英
4	10月21日	咬合器の調節	効果的な咬合器の調節法と操作法	
5	10月28日	チェックバイト	チェックバイトの意義と臨床応用基準	水橋 史
6	11月4日	咬合器の種類と構造	各種咬合器の構造と特徴	
7	11月11日	有歯顎の咬合診断(1)偏心位ガイドの部位と方向	前方運動と側方運動におけるガイドの部位と方向の診断	小出 馨
8	11月18日	有歯顎の咬合診断(2)中心咬合位	カusp・トゥ・フォッサの咬合接触関係と臼歯部歯冠形態の連続性の評価	高橋 睦
9	11月25日	有歯顎の咬合診断(3)咬合平面	咬合平面の位置と彎曲度の診断	
10	12月2日	筋の検査	咀嚼系筋群の診査と評価法(筋の触診)	小出 馨
11	12月9日	顎関節の検査	顎関節の診査と評価法(顎関節の触診)	
12	12月16日	顎関節症の診断	顎関節症の原因・症状と病態分類	浅沼 直樹
13	1月13日	顎関節症の治療(1)	マニピュレーションテクニック	小出 馨
14	1月20日	顎関節症の治療(2)	スプリント療法, 理学療法, 薬物療法	浅沼 直樹
15	1月27日	総括	顎口腔系の検査・診断後期のまとめ	小出 馨
16				

顎口腔機能診断学実習

授業責任者：小出 馨

教科書：顎口腔機能診断学実習書（歯科補綴学第1講座 編）

参考書：チェアサイドで行う顎機能診査のための基本機能解剖・小出 馨，井出吉信 編・医歯薬出版
臨床機能咬合学－咬合の7要素によるオクルージョンの臨床－・小出 馨 編・医歯薬出版

一般目標：

顎口腔機能の診断に必要な顎関節，筋，咬合に対する的確な診査・検査ならびに分析・評価のための基本的知識と技術を修得する。また，治療目標設定に必要な診断と設計のための基本的知識と技術を習得する。

行動目標：

1. 概形印象を適切に採得し，上下顎の診断用模型を製作する。(E-1-1) - ⑱)
2. フェイスボウトランスファーを行い咬合器の診断用模型を装着する。(E-3-4) - (1)-⑩)
3. ジグを製作し，側方偏心位におけるチェックバイト記録を採得する。(E-3-4) - (1)-⑩，E-3-4) - (2) - ⑨)
4. 側方偏心位におけるチェックバイト記録により咬合器の顎路調節を行う。(E-3-4) - (1)-⑩)
5. 中心咬合位における咬合接触関係を分析・診断する。(E-2-2) - ③)
6. 偏心位でのガイド部位と方向を分析・診断する。(E-2-2) - ③)
7. オクルーザルプレーンアナライザーにより咬合平面の位置と彎曲度を分析・診断する。(E-2-2) - ③，E-2-4) - (10)
8. 口腔内で咬合診断を行う。(E-2-2) - ③)
9. 筋の触診を行い診断する。(E-2-1) - ②，E-2-4) - (6)-②)
10. 顎関節の触診を行い診断する。(E-2-1) - (5，E-2-4) - (6)-②)
11. 顎頭運動経路描記と経路分析を行って顎関節の診断を行う。(E-2-2) - ③，E-2-4) - (10)
12. 顎関節と咬合の関係を診断する。(E-2-2) - ③)
13. 診断用模型上で色分け表示法により各種部分床義歯の予備設計を行う。(F-3-4) - (2)-②，⑫)

学習方略：

示説，デモンストレーション，診査・検査・診断実習

評価方法：

手技操作，進行状況，筆記試験，出席状況

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月2日	上顎印象採得, 診断用模型の製作	上顎の印象採得と上顎診断用模型の製作(相互実習) 【OSCE課題3-4】	小出 馨 近藤 敦子 浅沼 直樹 佐藤 利英 水橋 史 高橋 睦 荒川いつか 八子誠一郎 三浦 康伸 三宅 正基 西巻 仁 石井 広信
2	10月9日	下顎印象採得, 診断用模型の製作	下顎の印象採得と下顎診断用模型の製作(相互実習) 【OSCE課題3-4】	
3	10月16日	フェイスボウト ランスファーと咬 合器への模型装着	フェイスボウトランスファーと咬合器への上顎模型の装着 (相互実習)	
4	10月23日	咬合器への下顎 模型の装着と咬 合器の顎路調節	咬合器への下顎模型の装着(相互実習) 側方チェックバイトによる効果的な咬合器の作業側と平衡側 の顎路調節(模型実習)	
5	10月30日	アンテリアジグ の製作とチェッ クバイト	口腔内で側方偏心位のアンテリアジグ製作と側方偏心位にお けるチェックバイトの採得(相互実習)	
6	11月13日	咬合器の顎路調 節と有歯顎の咬 合診断(1)	採得した側方チェックバイトによる効果的な咬合器の作業側 と平衡側の顎路調節, 咬合器上での偏心位ガイドの部位と方 向の診断(相互実習)	
7	11月20日	有歯顎の咬合診 断(2)	カスプ・トゥ・フォッサ模型上での咬合分析とペインティン グ(模型実習), 中心咬合位での咬合接触関係と臼歯部歯冠 形態の連続性の評価	
8	11月27日	有歯顎の咬合診 断(3)口腔内	口腔内と咬合器上での咬合診断(相互実習), 咬合器上での 咬合平面の位置と彎曲度の分析・評価・診断	
9	12月4日	筋の検査・診断	筋の触診と病態診断(相互実習)	
10	12月11日	顎関節の検査・ 診断(1)	顎関節の触診と病態診断(相互実習)	
11	12月18日	顎関節の検査・ 診断(2)	SCMレコーダーによる顎頭運動経路描記と経路分析, 病態診 断(グループ実習)	
12	1月8日	全部床義歯の診 査・診断, 咬合 床の製作(1)	全部床義歯のための無歯顎模型分析と歯槽頂線の描記, 常温 重合レジンをういた2回法による基礎床の製作	
13	1月15日	全部床義歯の診 査・診断, 咬合 床の製作(2)	上下顎無歯顎模型上での基礎床の完成と歯槽頂線を基準とし た蠟堤の製作	
14	1月22日	全部床義歯の診 査・診断, 咬合 床の製作(3)	全部床義歯のための咬合床の完成(上下顎無歯顎模型と製作 した咬合床は, 第4学年前期の全部床義歯学実習で咬合器に 装着して使用するので大切に保管すること)	
15	1月29日	総括, 筆記試験	総括, 筆記試験	
16				

部分床義歯補綴学

授業責任者：小出 馨

教科書：基本クラスデンチャーの設計・小出 馨 編・医歯薬出版
歯学生のパーシャルデンチャー・三谷春保 編・医歯薬出版

一般目標：

部分的歯列欠損患者に対して予知性の高い治療を行うために、残存組織保全と機能回復率向上の両立を図ることが不可欠なことを理解し、実際の部分床義歯治療に必要な検査・診断および基本的治療理論に関する知識を習得する。

行動目標：

1. 部分的な歯の喪失により生じる顎口腔系の形態と機能の変化について説明する。(E-3-4) - (2)-①)
2. 部分床義歯補綴治療の臨床的意義について説明する。(E-3-4) - (2)-②, ③)
3. 部分床義歯の支持要素について説明する。(E-3-4) - (2)-④, ⑥)
4. 歯列の欠損状態を分類する意義と分類法について説明する。(E-3-4) - (2)-④)
5. 部分床義歯における各構成要素の役割と具備条件について説明する。(E-3-4) - (2)-①, ⑥)
6. 部分床義歯の設計概念と理論的背景を説明する。(E-3-4) - (2)-⑫)
7. サベイングの目的と方法について説明する。(E-3-4) - (2)-⑪, ⑫)
8. 部分床義歯に用いる支台装置の種類と特徴について説明する。(E-3-4) - (2)-⑥, ⑩, ⑪)
9. 部分床義歯の治療に必要な狭義の前処置の目的と基準を説明する。(E-3-4) - (2)-⑫)
10. 症例に応じた支台装置の選択基準について説明する。(E-3-4) - (2)-④, ⑩, ⑪)
11. 各種支台装置の設計原則について説明する。(E-3-4) - (2)-⑫)

学習方略：

講義，示説

評価方法：

客観試験・論述試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月3日	歯の欠損と補綴治療の意義	歯の喪失によって生じる顎口腔系の変化と補綴治療による機能の回復と残存組織の保全	小出 馨
2	10月10日	部分床義歯の支持(1)	支台歯をはじめとする残存歯における支持要素の特性と治療にあたっての考え方	水橋 史
3	10月17日	部分床義歯の支持(2)	欠損部顎堤の支持要素の特性と治療にあたっての考え方	
4	10月24日	歯列欠損の分類(1)	歯列欠損を分類する意義と各種分類法の特徴	高橋 睦
5	10月31日	歯列欠損の分類(2)	歯の欠損部位による分類と咬合支持域の残存状態による分類	
6	11月7日	部分床義歯の設計概念	部分床義歯の設計概念と理論的背景, 設計の6要素から見た残存組織保全と機能回復率向上の両立	小出 馨
7	11月14日	部分床義歯の維持(1)	エーカースクラスプの設定基準	
8	11月21日	部分床義歯の維持(2)	R.P.Iクラスプの設定基準	
9	11月28日	サベイングと部分床義歯の設計	サベイングの目的と方法, 部分床義歯設計の手順と実際	佐藤 利英
10	12月5日	各種支台装置(1)	各種支台装置の特徴と具備条件	西野 和之
11	12月12日	各種支台装置(2)	クラスプの種類, 適応症と特徴	
12	12月19日	各種支台装置(3)	アタッチメントの種類, 適応症と特徴	
13	1月16日	部分床義歯と歯周組織	部分床義歯のロードコントロールと歯周組織	内田 剛也
14	1月23日	支台装置の設計	各種支台装置の設計原則	小出 馨
15	1月30日	総括	部分床義歯補綴学後期のまとめ	
16				

全部床義歯補綴学

授業責任者：小出 馨

教科書：デザインング・コンプリートデンチャー・小出 馨編・医歯薬出版
無歯顎補綴治療学・細井紀雄，平井敏博編・医歯薬出版

一般目標：

歯列の全部欠損に対して全部床義歯による補綴治療を適切に行うため，その理論と方法を理解する。

行動目標：

1. 無歯顎の病態と検査・診断について説明する。(E-2-1) -②, ⑤, ⑥, E-2-2) -②, E-2-3) -⑤, E-3-4) -(2)-⑫)
2. 無歯顎の検査・診断と治療計画立案について説明する。(E-3-4) - (2) -①~③, ⑫)
3. 全部床義歯治療の前処置について説明する。(E-3-4) -(2)-⑪)
4. 各種印象採得法と個人トレーの製作，上顎の筋形成と最終印象採得について説明する。(E-3-4) -(2)-⑦, ⑩)
5. 下顎の筋形成と最終印象採得について説明する。(E-3-4) -(2)-⑦, ⑩)
6. 作業模型と咬合床の製作について説明する。(E-3-4) -(2)-⑧, ⑩, E-3-4) -(1)-⑦)
7. 咬合床の製作と仮想咬合平面の設定，フェイスボウトランスファーについて説明する。(E-3-4) -(1)-⑪, E-3-4) -(2)-⑧)
8. ゴシックアーチ描記，チェックバイト，咬合器の顎路調節について説明する。(E-3-4) -(1)-⑧, ⑪, E-3-4) -(2)-⑧, ⑨)
9. 人工歯の選択と排列の基準を説明する。(E-3-4) -(2)-⑩, ⑪)
10. 歯肉形成と蠟義歯の試適について説明する。(E-3-4) -(2)-⑩, ⑪)
11. 埋没，流蝕，レジン填入，重合，掘り出しについて説明する。(E-3-4) -(2)-⑩, ⑪)
12. リマウント，削合，研磨，装着について説明する。(E-3-4) -(2)-⑩, ⑪)
13. 義歯の破損・修理，粘膜調整，リライン・リベースについて説明する。(E-3-4) -(2)-⑬)
14. 無歯顎患者の訪問診療について説明する。(E-3-4) -(2)-⑬, E-4-3) -⑧, ⑨)

学習方略：

講義，示説

評価方法：

客観試験・論述試験

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月2日	無歯顎の病態と診断(1)	全部床義歯治療の概説と無歯顎の病態と検査・診断	小出 馨
2	10月9日	無歯顎の病態と診断(2)	無歯顎の検査・診断と治療計画立案	水橋 史
3	10月16日	前処置	全部床義歯治療の前処置	小出 馨
4	10月23日	印象採得(1)	各種印象採得法と個人トレーの製作，上顎の筋形成と最終印象採得	
5	10月30日	印象採得(2)	下顎の筋形成と最終印象採得	
6	11月13日	作業模型と咬合床	作業模型と咬合床の製作	水橋 史
7	11月20日	咬合採得(1) 垂直的下顎位の決定	咬合床の製作と仮想咬合平面の設定，フェイスボウトランスファー	小出 馨
8	11月27日	咬合採得(2) 水平的下顎位の決定	ゴシックアーチ描記，チェックバイト，咬合器の顎路調節	
9	12月4日	人工歯排列(1) 前歯部	前歯部人工歯の選択と排列の基準	
10	12月11日	人工歯排列(2) 臼歯部	臼歯部人工歯の選択と排列の基準	
11	12月18日	蝕義歯の製作	歯肉形成と蝕義歯の試適	佐藤 利英
12	1月8日	埋没・重合	埋没，流蝕，レジン填入，重合，掘り出し	高橋 睦
13	1月15日	リマウント，削合，咬合構成，研磨，装着	リマウント，削合，咬合構成，研磨，装着	渡辺 正宣
14	1月22日	訪問診療	無歯顎患者の訪問診療	黒川 裕臣
15	1月29日	定期検診，総括	義歯の破損・修理，粘膜調整，リライン・リベース，無歯顎補綴治療の理論と術式のまとめ	小出 馨
16				

口腔顎顔面外科学

授業責任者：山口 晃

教科書：標準口腔外科学第3版・野間ほか編集・医学書院

参考書：口腔外科学第3版・白砂ほか編集・医歯薬出版
口腔顎顔面外科学・道 ほか編集・医歯薬出版
最新口腔外科学・上野ほか編集・医歯薬出版

一般目標：

顎口腔領域に現れる先天異常，発育異常，外傷，炎症性疾患，および顎関節疾患を理解し，診断するために必要な知識を習得する。

行動目標：

1. 先天異常症候群を説明する。(E-2-4) -(1)-①, E-2-4) -(9)-⑤, ⑥)
2. 口唇・口蓋裂を説明する。(E-2-4) -(1)-②)
3. 顎変形症を説明する。(E-2-4) -(1)-③)
4. 口腔内および顎顔面の外傷を説明する。(E-2-4) -(2)-①～⑥)
5. 歯冠周囲炎，顎炎，顎骨周囲炎を説明する。(E-2-4) -(3)-①, ③～⑦)
6. 口腔軟組織の炎症および特異性炎を説明する。(E-2-4) -(3)-④～⑧)
7. 顎顔面領域に症状を現す血液疾患を説明する。(E-2-4) -(9)-①)
8. 顎関節疾患の種類，特徴を説明する。(E-2-4) -(6)-①, ②)

学習方略：

講義

評価方法：

論述試験，出席状況，受講態度，レポート

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	10月1日	口腔先天異常	種類, 特徴	山口 晃
2	10月8日	口唇・口蓋裂	分類, 特徴	戸谷 収二
3	10月22日	顎変形症	分類, 特徴	水谷 太尊
4	10月29日	外傷(1)	歯の外傷, 下顎骨折	赤柴 竜
5	11月5日	外傷(2)	上顎骨折, 頬部骨骨折	佐藤 英明
6	11月12日	外傷(3)	軟組織損傷, 口腔内損傷	山口 晃
7	11月19日	炎症性疾患(1)	歯冠周囲炎, 歯槽骨炎, 顎骨周囲炎	高田 正典
8	11月26日	炎症性疾患(2)	顎骨炎, 歯性上顎洞炎, 蜂窩織炎, 感染経路	小根山隆浩
9	12月3日	炎症性疾患(3)	ウイルス疾患各論	山口 晃
10	12月10日	炎症性疾患(4)	特異性炎	小根山隆浩
11	12月17日	血液疾患(1)	赤血球系疾患	小林英三郎
12	1月7日	血液疾患(2)	白血球系疾患	山口 晃
13	1月14日	出血性素因	血友病, von Willebrand病, ITP, Osler病	小林英三郎
14	1月21日	顎関節疾患(1)	顎関節の損傷, 炎症, 腫瘍	山口 晃
15	1月28日	顎関節疾患(2)	顎関節症, 顎関節強直症	田中 彰
16				

歯科矯正学

授業責任者：寺田員人

教科書：歯科矯正学第5版・相馬邦道他・医歯薬出版

一般目標：

患者の健康および生活の質の向上に資するため、不正咬合の予防と治療に関わる歯科矯正学および矯正歯科治療に関する基本的な知識と技術を習得する。

行動目標：

1. 矯正装置の種類と特徴を説明する。(E-4-1) -⑥)
2. 矯正装置の使用目的を説明する。(E-4-1) -⑥)
3. 不正咬合の治療と予防法を説明する。(E-4-1) -④)
4. 矯正歯科治療に必要な力学を説明する。(E-4-1) -⑦)
5. 矯正歯科治療によって起こる生体の反応を説明する。(E-4-1) -⑧)
6. 矯正歯科治療に伴う管理を説明する。(E-4-1) -⑨)
7. 矯正歯科治療によって生じる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明する。(E-4-1) -⑨)
8. 保定の意義と保定装置を説明する。(E-4-1) -④)
9. 再発防止策を説明する。(F-4-1) -④,-⑥)
10. 口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明する。(E-2-4) -(1)-②)
11. 顎変形症を概説する。(E-2-4) -(1)-③)

学習方略：

講義

評価方法：

客観試験，出席状況

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学 習 内 容	担当者
1	10月1日	矯正装置(1)	矯正装置の種類と特徴, 舌側弧線装置, 顎外固定装置, マルチブラケット装置	寺田 員人
2	10月8日	矯正装置(2)	床矯正装置, 拡大装置, 機能的矯正装置	
3	10月22日	矯正力と生体反応	狭義の矯正力と顎整形力に伴うそれぞれの生体反応, 固定	亀田 剛
4	10月29日	不正咬合の予防 矯正歯科治療(1)	不正咬合の予防 乳歯歯列期における矯正歯科治療	遠藤 敏哉
5	11月5日	矯正歯科治療(2)	混合歯列期の矯正歯科治療 (上顎前突)	寺田 員人
6	11月12日	矯正歯科治療(3)	混合歯列期の矯正歯科治療 (下顎前突)	遠藤 敏哉
7	11月19日	矯正歯科治療(4)	混合歯列期の矯正歯科治療 (その他の不正咬合)	
8	11月26日	矯正歯科治療(5)	永久歯列期の矯正歯科治療	佐野奈都貴
9	12月3日	保 定	保定の定義とその意義, 保定装置, 治療後の再発とその防止策	寺田 員人
10	12月10日	矯正歯科治療に伴う管理	矯正歯科治療に伴う管理と指導 矯正歯科治療に伴う偶発症と対策	長谷川 優
11	12月17日	交換授業	生命歯学部歯科矯正学講座 新井一仁教授の授業 「矯正歯科治療の開始時期」	新井 一仁
12	1月7日	チーム医療(1)	唇顎口蓋裂に関わる矯正歯科治療	寺田 員人
13	1月14日	チーム医療(2)	顎変形症と外科的矯正治療	
14	1月21日	チーム医療(3)	その他, 他科との連携治療	遠藤 敏哉
15	1月28日	総 括	歯科矯正学, 矯正歯科治療のまとめ	寺田 員人
16				

歯科矯正学実習

授業責任者：寺田員人

教科書：実習用プリント冊子

歯科矯正学 第5版・相馬邦道他・医歯薬出版

一般目標：

患者の健康および生活の質の向上に資するため、不正咬合の予防と治療に関わる歯科矯正学および矯正歯科治療に関する基本的な知識、技能および態度を習得する。

行動目標：

1. 診断に必要な検査の種類と必要性を説明する。(E-4-1) -④)
2. 不正咬合の観察・検査の方法を説明する。(E-4-1) -④)
3. 顔面写真・口腔内写真を評価する。(E-4-1) -④)
4. 診断用模型およびセファログラムを分析する。(E-4-1) -④)
5. 抜歯・非抜歯の判定を行い、抜歯部位を決定する。(E-4-1) -④)
6. 診察および症例分析結果を総合評価する。(E-4-1) -④)
7. 治療目標を確立し、治療計画を設定する。(E-4-1) -④)
8. 矯正歯科治療の必要性を説明する。
9. 矯正装置の種類と構造を説明する。(E-4-1) -⑥)
10. 装置の製作、装着に用いる器材の名称と使い方を説明する。(E-4-1) -⑤)
11. 舌側弧線装置の作製手順を説明する。
12. 舌側弧線装置を作製する。
13. 歯の移動に必要な力学を説明する。(E-4-1) -⑦)
14. セクショナルアーチの構成を説明する。(E-4-1) -⑥)
15. セクショナルアーチを装着する。

学習方略：

示説，シミュレーション実習

評価方法：

観察記録，レポート，出席状況

(単位数：1.0)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月6日	不正咬合の分析 (永久歯列期)(1) 診察および検査	調査表, 顔面写真, 口腔内写真, レントゲン写真等を用いた 診察・検査	寺田 員人 長谷川 優 亀田 剛 佐野奈都貴 春藤 勲 小林 義樹 石多理恵子 阿部 亮太 石多 克行
2	10月15日	不正咬合の分析 (永久歯列期)(2) 模型分析	診断用模型上を用いた, 歯冠, 歯列弓, 歯槽基底弓, ディスク クレパンシーの計測	
3	10月20日	不正咬合の分析 (永久歯列期)(3) セファロ分析	セファログラムの分析 計測基準線, 計測項目の確認, セファロ分析	
4	10月27日	不正咬合の分析 (永久歯列期)(4) 総合診断・治療 計画の立案	総合診断 (抜歯分析を含む) 治療目標の設定 治療計画の立案	
5	11月6日	舌側弧線装置の 製作(1)	診断, 帯環の試適, 維持装置の接合, 印象採得, 作業用模型 の作製	
6	11月10日	舌側弧線装置の 製作(2)	舌側弧線装置の設計, 主線の屈曲, 脚部と主線の鑢着, 自在 ろう着	
7	11月17日	舌側弧線装置の 製作(3)	装置の装着, 補助弾線の装着, 自在ろう着 補助弾線の活性化, 装置の作用の観察 装置の撤去	
8	12月1日	セクショナル アーチによる歯 の移動(1)	装置の装着 (チューブ, ブラケットの接着) ワイヤーベンディング	
9	12月8日	セクショナル アーチによる歯 の移動(2)	ワイヤーベンディング 治療計画の立案 (治療手順の立案)	
10	12月15日	セクショナルアー チによる歯の移 動(3)	歯の移動のシミュレーション(1) 歯の移動とその評価(1)	
11	12月22日	セクショナルアー チによる歯の移 動(4)	歯の移動のシミュレーション(2) 歯の移動とその評価(2)	
12	1月9日	総合診断・治療 計画立案 (混合 歯列期) (1)	診断および治療方針の立案 (混合歯列期の症例1)	
13	1月19日	総合診断・治療 計画立案 (混合 歯列期) (2)	診断および治療方針の立案 (混合歯列期の症例2)	
14	1月26日	総括	実習のまとめと総評	
15				
16				

小児歯科学

授業責任者：関本恒夫

教科書：新小児歯科学 第3版・下岡正八他・クインテッセンス

参考書：小児の歯科治療・下岡正八他・永末書店
小児歯科学 第4版・高木裕三他・医歯薬出版

一般目標：

人の一生 (life cycle) の中で胎児期から成人にいたる小児の口腔ならびに顎顔面領域の健康を維持増進させ、健全な顎口腔の形態と機能を予防育成し、疾患や異常を治療するとともに、口腔の健康管理を行うための理論と方法を習得する。

行動目標：

1. 小児患者に対する歯科医療の目的と意義を説明する。(B-1-①～③)
2. 小児の発育の特徴と評価法を説明する。(E-4-2-①) (E-2-3) -③)
3. 小児の栄養について説明する。(E-4-2-①)
4. 小児の摂食・咀嚼・嚥下の発達と障害について説明する。
5. 歯の発育について説明する。
6. 歯・歯列・咬合の発育と評価法を説明する。(E-3-1) -①) (E-2-2) -③, E-4-2) -⑧)
7. 乳歯・幼若永久歯の生理学的意義、形態的特徴を説明する。(E-3-1) -②, ③)
8. 小児の医療面接について説明する。(A-7-2) -①～⑤, E-4-2) -⑩)
9. 小児の歯科的対応法について説明する。(A-7-2) -③, ④) (E-1-1) -⑬)
10. 小児の口腔管理と診療方針を説明する。(E-1-1) -①, ⑦～⑬)
11. 小児の齲蝕の特徴と予防方法を説明する。(E-4-2) -②, ③, B-3-2) -①, ②) (E-1-6-(2)-③)
12. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類、適応症、手順と留意事項を説明する。(E-4-2) -④)
13. 小児の歯周疾患について説明する。(E-3-1) -⑤) (E-3-2) -④)

学習方略：

講義

評価方法：

客観試験, TBL

(単位数：1.5)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月2日	小児歯科学総論	小児歯科学とは	関本 恒夫
2	10月9日	小児の発育と評価 小児の栄養	小児の発育の特徴と評価 生理的特徴, 栄養	島田 路征
3	10月16日	摂食・咀嚼・嚥下	摂食・咀嚼・嚥下の発達と障害	
4	10月23日	歯の発育	歯の発育と異常 開始期～萌出期	田中 聖至
5	10月30日	歯列・咬合の発育	乳歯列期の発育と異常	関本 恒夫
6	11月13日	歯列・咬合の発育	混合歯列・永久歯列期の発育と異常	
7	11月20日	乳歯・幼若永久歯の特徴	生理的学意義, 形態学的特徴の比較	島田 路征
8	11月27日	医療面接と歯科 的対応	医療面接, 歯科 的対応	三瓶 素子
9	12月4日	小児患者の診療 方針	小児患者の診療 方針	
10	12月11日	小児期の齲蝕	小児期の齲蝕の 特徴, 好発部位 心身に与える影 響	三瓶 伸也
11	12月18日	小児期の齲蝕予 防	小児期の齲蝕予 防	
12	1月8日	小児の歯冠修復	小児の歯冠修復	松田 貴絵
13	1月15日	小児の歯周疾患	小児の歯周疾患 の予防と処置	
14	1月22日	小児の顎機能	小児の咬合と顎 機能の発達	苅部 洋行 (交換講義)
15	1月29日	総括	TBL	関本 恒夫 田中, 松田
16				

歯科症候学演習

授業責任者：葛城啓彰

教科書：指定しない。

一般目標：

歯科医学と社会の急速な進歩とニーズに対応するために、総合・実践的知識、自己・生涯学習の習慣、問題発見・解決能力、コミュニケーション技能・態度を身につける。

行動目標：

1. 問題点を発見する。(A-6-1) -①
2. 自主的に学習項目を決定する。(A-6-1) -①
3. 計画的に自己学習を行う。(A-6-1) -①
4. 学習に必要な情報を収集する。(A-6-1) -①
5. 収集した情報を有効的に活用する。(A-6-1) -②
6. グループセッションで情報の妥当性を検討する。(A-7-1) -③
7. グループセッションで他人の意見を聞く。(A-7-1) -③
8. グループセッションで自分の意見を述べる。(A-7-1) -③
9. 問題解決のための仮説を立てる。(A-6-1) -①
10. グループセッションで仮説を検証する。(A-6-1) -①
11. 課題で示された病態・症候を理論的に自分の言葉で説明する。(A-6-2) -②
12. 学習の過程・技能・成果を自己評価する。(A-6-2) -②
13. 歯科臨床と基礎医学とのとの関わりを説明する。(A-6-2) -②

学習方略：

PBLチュートリアル

評価方法：

出欠席状況，学習態度，学習記録（ポートフォリオ），筆記試験（問題発見能力判定試験）

(単位数：2.0)

回	実施月日	授業項目	学習内容	担当者
1	10月6日	オリエンテーション アイスブレイキング	オリエンテーション，仮説の立て方と検証，ノートの書き方，文献検索，図書館利用方法説明，PBL開始前，EQ測定，ブレインストーミング，グループルール	葛城 啓彰
2	10月15日	課題1-(1)	問題発見・グループ討論・アセスメント・情報収集（自己学習）	テュータ 葛城 啓彰 羽山 和秀 岡田 康男 田中 聖至 水橋 史 北島佳代子 小松崎 明 加藤 千景 岩崎 信一 笹川 一郎 佐藤 義英 青柳 秀一 猪子 芳美 梨田 智子
3	10月20日	課題1-(2)	問題発見・グループ討論・アセスメント・情報収集（自己学習）	
4	10月27日	課題1-(3)	問題発見・グループ討論・アセスメント・情報収集（自己学習），問題解決，まとめの学習	
5	11月6日	課題2-(1)	問題発見・グループ討論・アセスメント・情報収集（自己学習）	
6	11月10日	課題2-(2)	問題発見・グループ討論・アセスメント・情報収集（自己学習）	
7	11月17日	課題2-(3)	問題発見・グループ討論・アセスメント・情報収集（自己学習），問題解決，ロールプレイ	
8	12月1日	課題2-(4)	問題発見・グループ討論・アセスメント・情報収集（自己学習），まとめの学習	
9	12月8日	課題3-(1)	問題発見・グループ討論・アセスメント・情報収集（自己学習）	
10	12月15日	課題3-(2)	問題発見・グループ討論・アセスメント・情報収集（自己学習），問題解決	
11	12月22日	課題3-(3)	問題発見・グループ討論・アセスメント・情報収集（自己学習），問題解決，まとめの学習	
12	1月9日	PBLの振り返り プレゼンテーション原稿作成	PBL事後アンケート，PBL終了後EQ測定，プレゼンスキル解説，発表テーマ検討，プレゼン作成	テュータ全員
13	1月19日	プレゼンテーション	各班毎にプレゼンテーション（1班10分，質疑応答5分）	
14	1月26日	MEQ	問題発見能力判定試験（MEQ）	PBL教育委員会 3年生部会
15				
16				